１１月２８日（火曜日）

第３日目

令和５年11月28日（火曜日）

議事日程第３号

令和５年11月28日（火曜日）

開　　議　　午前10時

第１　一般質問

質　問

応　答

第２　議案等の付託

散　　会

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

１．田　村　儀　光　君

⑴　市長の進退と予算について

①　市長の退職時期について

②　後継指名をする考えはあるのか

③　新年度予算は骨格予算とするのか

④　新たな道の駅整備を推進するため、全国道の駅連絡会の理事に就任した機を逃さず、関連予算を早期に予算化すべきと考えるが、市長の考えは

⑵　観光事業について

・　田代岳を含む世界自然遺産白神山地を国立公園として指定するよう関係自治体と取り組むべきと考えるが、市長の考えは

２．金　谷　真　弓　君

⑴　総合病院と扇田病院の医療機能体制について

①　精神科救急について

②　透析患者の受入先について

⑵　手話通訳者の育成について

・　窓口で手話対応できる職員を配置してほしい

３．工　藤　賢　一　君

⑴　市長が国政転身のため辞職することによる市政への影響について

①　６月定例会における所信表明で市長が明らかにした４つの政策の柱の進捗及び目標達成状況の自己評価と辞職後の展望について伺う

② 事実上２年連続で骨格予算編成になるものと想定するが、市政への影響は

③ 衆議院が年度内に解散された場合の辞職時期について伺う

⑵ 大館市病院事業経営強化プランについて

① 大館市病院事業経営強化プラン策定支援等業務を委託している事業者から納品された「経営強化プラン素案」を公表すべき

② 病院事業経営強化プランは、将来の介護サービス供給体制の調査・分析にも影響する。素案策定後は在宅医療・介護連携推進協議会へ情報提供し、意見の聴取を

⑶ 扇田病院について

・ 扇田病院が地域で果たしている機能を正当に評価し、地域を支える「慢性期多機能病院」として存続を表明すべき

４．田 村 秀 雄 君

⑴ 水田活用の直接支払交付金の厳格化について

・ 農家離れが加速化する懸念がある。市の支援策は

⑵ スマート農業の推進など、生産の低コスト化、軽労化の取組について

・ 高齢化と後継者不足が進む中で、ＧＰＳ自動運転などに対する市の支援策は

⑶ 熊、イノシシ、猿などによる農作物の被害、人的被害について

・ 今後の対策は

⑷ 市役所駐車場整備について

・ 市民から景観が悪いとの声があるが、いつ完成するのか

⑸ 建設工事入札不調への対応について

・ 災害復旧工事や建設工事など、多くの工事で遅れが生じている。市はどう考えているのか

５．石 垣 博 隆 君

⑴ 輸出事業拡充について

・ 国の政策で推進している農産物の輸出強化について、市としても積極的に取り組むべきではないか

⑵ あきたこまちＲについて

・ あきたこまちＲは、鉱山で発展した大館市においてカドミウム対策で大変有効な品種であることから、県と歩調を合わせて積極的な導入支援を行ってはどうか

⑶ 労働者不足解消に向けて

・ 急激な人口減少が進む大館市において、産業界の人材確保は喫緊の課題であることから、外国人の人材の受入れについて積極的な支援を行ってはどうか

⑷ ふるさと納税について

・ 2023年に10億円の目標を掲げているが、目標の達成見込みは。また、2024年には

13億円の目標を掲げているが、具体的な方策は

６．相　馬　ヱミ子　君

⑴　秋田犬の里について

・　秋田犬の里を道の駅にしてにぎわいを

⑵　市立病院での眼科の手術対応について

①　患者が多く、手術が半年も待たされる現状について

②　緊急の場合、弘前市や秋田市へ通院し難儀している

③　医師を増やして対応できないのか

⑶　災害時の情報発信について

・　災害時の情報発信はどのようになっているか

⑷　学校での防災機能について

・　市内の学校での防災機能の整備状況について

７．吉　田　勇一郎　君

⑴　総合計画策定のために行った市民、団体からの意見聴取について

・　子育て団体、移住者、外国籍の居住者への意見聴取を行っているが、どのような課題が抽出され、総合計画ではどのようなアプローチでそれらの課題を解決しようとしているのか

⑵　ふるさと納税、旅先納税について

①　７月３日より開始した旅先納税の利用状況は

②　ふるさと納税のボトルネックは何であると考え、どのように解消しようと考えているのか

⑶　地域課題解決への市民参加を促進するミニ・パブリックスについて

・　地域課題解決への市民参加を促進する手段として、ミニ・パブリックス（くじ引き民主主義）の導入を検討してはどうか

日程第２　議案等の付託

出席議員（25名）

１番	吉　田　勇一郎　君	２番	菅　原　喜　博　君
３番	田　中　耕太郎　君	４番	花　岡　有　一　君
５番	藤　原　　明　君	６番	伊　藤　　毅　君
７番	秋　元　貞　一　君	９番	武　田　　晋　君
10番	今　泉　まき子　君	11番	伊　藤　深　雪　君
12番	小　畑　新　一　君	13番	石　田　健　佑　君
14番	柳　館　　晃　君	15番	田　村　秀　雄　君

16番	田村儀光君	17番	日景賢悟君
18番	石垣博隆君	19番	金谷真弓君
20番	工藤賢一君	21番	花田　強君
22番	岩本裕司君	23番	明石宏康君
24番	相馬ヱミ子君	25番	吉原　正君
26番	佐藤芳忠君		

欠席議員（１名）

８番　佐々木公司君

説明のため出席した者

市長	福原淳嗣君
副市長	北林武彦君
総務部長	日景浩樹君
総務課長	佐々木みゆき君
財政課長	若松健寿君
市民部長	伊藤良晋君
福祉部長	畠沢昌人君
産業部長	畠山俊英君
観光交流スポーツ部長	阿部拓巳君
建設部長	柏山一法君
病院事業管理者	吉原秀一君
市立総合病院事務局長	桜庭寿志君
消防長	虻川茂樹君
教育長	高橋善之君
教育次長	成田浩司君
選挙管理委員会事務局長	富樫　太君
農業委員会事務局長	鳥潟克次君
監査委員事務局長	畠沢依子君

事務局職員出席者

事務局長	乳井浩吉君
次長	長崎　淳君
係長	萬田文英君
主査	大高尚吾君

主　　査　　渡　部　慎　也　君
主　　査　　北　林　麻　美　君

午前10時00分　　開　　議

○議長（武田　晋君）　おはようございます。出席議員は定足数に達しております。

よって、これより本日の会議を開きます。

本日の議事は、日程第３号をもって進めます。

日程第１　一般質問

○議長（武田　晋君）　日程第１、昨日に引き続き、一般質問を行います。

最初に、田村儀光君の一般質問を許します。

〔16番　田村儀光君　登壇〕（拍手）

○16番（田村儀光君）　おはようございます。真政会の田村儀光です。今日もたくさんの傍聴者ありがとうございます。昨日、小畑さんも言ってたけれども、今回が市長に対する最後の質問になるかなという雰囲気が９月、10月はありました。今まで８年半、私は質問のたびに市長をずっと褒めてきました。大館を変えると言って市長になったが市長はどういうふうに変えるかなと期待をしながらいろいろ議論してきたのですが、本当に福原淳嗣市長は政治家として生まれた運命なのかなという気がしております。今ではもう着実に大館を変え――前にも言ったのですが、８年前はどこへ視察に行っても、大館から来たと言っても分からなかったのですけれども、今は大館と言うと、もうすごい知名度が上がっていまして、日本中どこ行っても大館と言うだけで分かるような大館に変わってきております。私の予定では３期目、もう３年、４年やって永田町へという思いでいたのですけれども、それがちょっと早くなって、市長の心中を察すると、せめてもう少し大館のインランドデポができてから永田町に行きたいなと思っているのが真実ではないかなと思っております。それはともかく、前に何回も言ってますけれども、大館を変えるのはいいですからこれからは永田町を変えてもらいたい。今、世界はウクライナの戦争、イスラエルの戦争、まるでごたごたしておりますけれども、日本も今、小さな混乱が永田町で起きております。これを変えるために、市長にはぜひ日本を変えてもらいたい。今までは大館を変えると一生懸命やってきましたけれども、日本を変えてもらいたい。それだけの政治力があると思っていますし、それに続く20年後、30年後は、大館から、変わった後の永田町へ行って、さらに日本を変える人材がいたらと思っていたのですけれども、それはちょっと分からないです。いずれそういう意味で市長にはこれからもそういう気持ちで、大館を変えるから今度は日本を変える。20年後、30年後には秋田県から２番目の総理大臣になれるような人物だと思っておりますので、ますます頑張っていただきたいと思っております。よろしくお願いします。ということで、質問をやめようかなと思うのですけれども一応通告しておりますので、通告に沿って……。

永田町の９月、10月の状況だと年内解散ということでありましたけれども、今の様子を見て

いると、どうももう１年は延びるのではないかなと私個人では見ております。**市長の進退と予算について**と第１番目に質問しております。市長の退職の時期についてと書いてありますが、９月、10月頃は今回の12月議会が終われば辞職するなと思っていたのです。大館にも激震が走ったなと思っていました。市長が永田町行くことによって、市民が一番関心を持っている次の市長は誰だということも書いてあります。それが今11月に入ったら永田町の雰囲気が変わって、私見ですけれども、６月、９月頃まで一緒にできるのではないかなと思っております。市長が今現在考えている退職の時期をもしよかったら答えてもらいたいなと思っております。それから後継指名をする考えはあるのか。これは新聞にも出ていて、できたら市会議員の中から出てほしいということを言っていましたがまた混乱を呼びまして、お前出るのかと何回も言われたこともありますけれども、まさか年を考えてくれ、若かったら出るのだがと言いましたが、そういう状況です。もし後継指名の考えがあるのであれば、市長から話せるのだったら話してもらいたい。今話せないのだったら後でもいいです。それから新年度予算はこれからなのですけれども、今月辞めると思っていたから骨格予算になるのかどうかということで３番目の質問に書いております。それから４番目。これは新たな道の駅整備を推進するため、全国道の駅連絡会の理事に就任した機を逃さず、関連予算を早期に予算化すべきと考えるが、市長の考えは。このとおりです。永田町へ行くことが決まってから、何月だったか、全国道の駅連絡会の834の自治体の中から11人の理事、２人増やして13人だそうですけれども、その中に選ばれた福原市長なのです。福原市長の人間性をずっと見てきて大館を変えたし、関係人口を増やしてきたし、言えば切りがないのです。もう１回か２回、質問の機会はあると思いますので、あまり詳しくは話をしないです。この道の駅は、昨日トップバッターで田中耕太郎議員が質問しましたが、今、大館に２つの道の駅がありますけれども、全国の道の駅と比べると道の駅と言えるのかというくらい、国の予算でトイレと駐車場だけの道の駅。市長からも、町なかに防災、医療、観光も兼ねた道の駅を１か所造って、大館ににぎわいが生まれるようにしたいというのを前から聞いていたのですけれども、耕太郎議員もこの件について何回も質問しております。せっかく今、道の駅の理事に就任したのを逃す手はないということで、私個人としては12月の補正予算に調査費とか何か関連予算が出て、次の市長へバトンタッチするのかなと思って補正予算を見たのですけれども、１つもその項目がなかったことに、本当に残念だと思っておりました。これからでも遅くないですから、３月までは必ずいると思いますので、新しい予算の中に道の駅関連の予算をぜひ幾らかでもつけてもらいたい。今、連絡会の理事に就任したお祝いとして、誰も反対する人はいないと思います。道の駅調査費、どこへやったらいいか、どういう道の駅にしたらいいかというのを３月には出してもらいたい。別に今回の最終日に補正予算で出してもいいのです。私はそのつもりでもいますけれども、この機会を逃さないで後継者に道を譲ってもらいたいと思っております。何とかその辺で市長の考えを伺います。

それから、大きい項目の２番目、**観光事業について**。実は今日傍聴に来ています田代岳を愛

する会の会長の渡部さんから何週間か前に、ぜひ市長に話してくださいと懇々とお願いされまして、では、この次の一般質問でやりますということでやったのです。本人も来ていますので、市長、真剣に答えてください。質問の内容として、田代岳を含む世界自然遺産白神山地を国立公園として指定するよう関係自治体と取り組むべきと考えるが、市長の考えはということです。私も勉強不足で渡部さんには悪いのですが、私は山登りも苦手なのであれなのですけれども、いろいろ調べさせていただいたら、今、日本に世界文化遺産が20か所、白神山地のような自然遺産が５か所しか認定されてないそうです。ただ、市長もよく大館には世界自然遺産、文化遺産があると言い、白神山地の一角の田代岳もそうだと思って、大館には世界自然遺産があり、一生懸命観光事業の有客の目玉にしようとしてきましたが、実際にこの世界遺産に指定されているところはどこら辺なのか私は分かりませんでした。面積を見てみたら、白神山地は13万ヘクタールあるそうです。その中で世界遺産に指定されているのが１万6,971ヘクタール、どこなのか分からないです。それでも白神山系ということで深浦のほうから青森までずっと世界遺産だということで、市長も事あるごとに大館には白神山地がある、田代岳があるから観光に生かしたいと今まで何回も一生懸命述べてきましたが、内容を見るとこういうことだそうです。それで、世界遺産に認定されたからといって予算が幾らも出るわけではないです。国立公園にすると国で管理・運営しますが、先ほど世界自然遺産５つあると言いましたけれども、中を見たらその５つのうちの４つが既に国立公園に指定されているのです。それで聞いてみたら、世界自然遺産の認定を一番早く受けたのが白神山地だそうです。一番先に世界自然遺産になった白神山地がいまだに国立公園ではなくて、ほかの４つの屋久島、知床、小笠原諸島、奄美諸島は既に国立公園として認定されて、国で管理・運営している。私も今勉強して分かったのですけども、世界遺産の５つのうち、なぜ白神山地だけ国立公園に認定されてないのか本当に七不思議みたいな話です。永田町に行ったらますますやりやすくなると思うのですけれども、ぜひ大館市長のうちにこういう運動をと関係自治体を調べたら白神山地に関係する自治体は８か所あるそうなので、それらの首長と話し合い、声がけをして国立公園の指定を受けるように何とか努力してもらいたい。ついでにもう一つ渡部さんの話をすると、今、森吉山が既に国立公園の指定を受けるように申請して、もう内示をもらったような状態。それも私は知らなかったので後で新聞記事を見せてもらったが、自然遺産でも何でもない八幡平の周辺の山ということで申請して、今内示を受けているような状態ですが、森吉山にできて何で田代岳、白神山系が国立公園にならないのかと、今日来ています渡部さんに本当に怒られました。そういう事情で私は今質問しておりますので、何とか渡部さんが納得いける回答をお願いしたいと思います。

以上でここからの質問を終わります。ありがとうございました。**（拍手）**

〔16番　田村儀光君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村儀光議員の御質問にお答えいたします。まずお答えす

る前に、常に破天荒なエールありがとうございます。きちんとお答え申し上げたいと思います。

大きい項目の１点目の小項目の１点目であります。まず、私の退職時期につきましては、次期衆議院議員選挙の時期が非常に重要になります。この大所をまず見極めつつ、特に公約に掲げております地域医療など喫緊に対応するべき政策の方向性をきちんと打ち出して、要は私の手で仕上げて、それから可能な限り市政への影響が最小限になるよう判断をして決めていきたいと考えています。ただし、残された期間は非常に短いと考えています。これまで進めてきた政策をさらに前進させるべく、市長の職務を全うしていきたいと考えております。小項目の２点目であります。後継指名というよりも、私の政治に対する考え方をお話ししたいと思います。政治は政と書きます。その中で私が大切にしている、今から27年前、27歳で当選させていただいたときからずっと考えているのは、政治家でなくて政策が主役の政治が私のモットーです。当時27歳の私も今55歳になりました。いずれ体が動かなくなる。政治家というのはいつか終わりが来る。ところが、正しい政策はその町に残って、人の暮らし、町、国を豊かにしていく。27年前の福原淳嗣が訴えたリサイクルマインパークは今、環境リサイクル産業としてしっかりと大館に根づいています。そして、政策的な正当性と言いますが、政策的な幅を持っていたので相乗効果を呼んで、今、畠山部長が頑張ってくれている大館駅インランドデポにつながってきます。正しい政策はこういうものだと私は思っています。そして、正しい政策を実現していく上で一番大切なのは、行政のマンパワーだと私は思います。だからこそ今必要なのは、政局ではなく政策です。この時期、大館市が求められている政策の優先順位を私たちが共有する必要があると思います。先般行われた県との政策協議の場において、交流会の場ではありましたが、県の担当の健康福祉の方々は、今大館が取り組んでいる病院事業に関する議論は大館モデルと言っていい。そしてその大館モデルは、将来県立病院を持たない秋田においては秋田モデルになり得るとまで言ってくれている。ここをしっかりと形をつくって、それから私は次の挑戦に臨むべきだと考えています。そうした意味において、これまでの福原市政で築いてきた内に優しく、外に強い大館市の考え方をきちんと継続する必要があると考えています。そして継続するだけでなく、スピード感を持ってこの政策を実行していただける方、即戦力である人物がふさわしいと考えています。市長に就任してからの２期８年、要は８年半、田村議員とこうやって丁々発止してきました。しかしながら、先人先達、誰もが経験したことのないこのパンデミックの中においても、大館市は他市とは違う歩みを確実に積み重ねてきました。その議論をきちんと継承できる方でなければ、恐らく務まらないと思います。私が言いたいのはそこです。市長就任からの２期８年、私の掲げた政策を共に議論、同じ方向性を持った方にこそ次期市政を担っていただきたいという思いであります。そして、私は議員とは言っていません。この議場からと言ったのです。新聞記事になったとき議員になったのですが、私は議場からと言いました。ということは、私の前に面している市民から選ばれた皆さんたちもそうですが、実は私のこちら側にいる当局の側にもそれにふさわしい人間がいるのです。今、議会事務局長と

目が合いましたが、議会事務局長はその気はないと思います。そして、私が一番留意をしてきたのは、出張に行くときに必ず同行させるということです。一番行っているのは、総務部長として４年、理事として３年の副市長です。副市長は、間違いなく、なぜ私が市の職員を同行させるのか、私がどういう人であってどういう決定の仕方をするのか、それを熟知しています。行った部長はみんなそれを経験しています。ですので後ほどお話ししますが、30年の節目を迎えた道の駅。今回は石垣博隆副議長に同行していただきました。目から鱗だったと思います。理事だからこそ知り得る情報というのがたくさんあったと思います。その一端をお話しします。公務員数の国際比較です。例えば、Ｇ７の先進国中で1,000人当たりの公務員の数は、フランスが一番多くて90人、次がイギリスで70人、次がドイツの64人、アメリカの62人、そして日本は何とたったの37人。もう一つ公務員数の国際比較があります。大館市は大館市家族会議を創設します。フランスや北欧に倣い家族を単位にあらゆる政策を充実させていきます。公務員数の国際比較、雇用者全体に占める一般政府雇用者比率の国際比率です。一番上がノルウェーの30％。次がスウェーデン29％、デンマークが28％、フィンランドが25.4％。私が政策で掲げた目指すべき大館暮らしの形は北欧にある。そしてフランスが来て21％。一番びりが日本。北欧が28％～30％などに対して、日本はたった4.6％。つまり、日本ほど公務員をこき使ってる国はないということです。それぐらい充実させる必要があるということです。昨日、私が福沢諭吉先生の「立国は私なり、公に非ざるなり」と言ったのは、役人の仕事がつまらないということではないのです。国を守る、社会を守るのは私たちの自由意思だということをしっかりと言えるかどうか。そういう考え方を根づかせているのが本当の民主主義国家だということです。そこをしっかりと共有できる方にこの議場から選ばれてほしいと考えております。そして、小項目の３点目、当初予算の質問でございました。大館市病院事業経営改革プランを成し遂げると同時に次に重要なのが、やはり来年度の予算の方向性をしっかりと形にすることだと思います。そうした意味において、当初予算の編成に当たっては、毎年度ですが基本的な方針、予算編成方針を定め、そして令和６年度においては、ポストコロナに向けた地域経済活性化の推進を第一としてまちを次代へ導く取組の推進、そして施策・事業の検証とスクラップ・アンド・ビルドの徹底による財源の確保の３つの基本方針を掲げ、各部署に対応を指示いたしました。また、令和６年度予算編成にもつながる本年度２回目となります部課長による政策協議を10月に実施いたしました。各部課長と町を次代へ導くための協議を重ね、私からはひと・ものが行き交う北東北の拠点をつくる、国と県と強固に連携した医療環境をつくる、こどもたちに世界への架け橋をつくる、暮らしとまちを未来に導く羅針盤をつくるといった重要項目を踏まえた方向性を指示したところです。一方、総務省の令和６年度予算の概算要求を確認すると、非常に重要なことに気づきます。地方がこれから取り組まなければならない重要な課題として、ＤＸ・ＧＸの推進、こども・子育て政策の強化、地方への人の流れを強化する等個性を生かした地域づくりの推進、そして防災・減災、国土強靭化をはじめとする安全、安心な暮らしの実現、

人への投資など、活力があり、そして多様な地域社会の実現等に取り組むことができるよう、安定的な税財政基盤を確保する必要があることを示すとともに、地方の財政運営に必要な一般財源の総額においては前年度水準を下回らないよう、実質的に同水準を確保すると総務省はしています。そうしたことから、大館市では国の動向を注視しながら、これまでの議会審議での御指摘、そして市民要望に十分に留意をした上で、地域経済の好循環そして市民が暮らしやすくなる策を最優先として、将来も持続可能な暮らしをつないで内に優しく、まちをつないで外に強くをさらに深化させた、これまでの私の任期の集大成となるような予算を編成していきます。今後、事業内容及び所要額を精査した上で取りまとめ、来年２月には市議会各会派にお示しをしたいと考えております。ぜひ御理解賜りますよう、御協力いただきますようお願い申し上げます。小項目の４点目でありますが、柏山部長が手を叩いて喜ぶような質問をありがとうございました。私は、新たな道の駅の設置に向け、国あるいは県といったいわゆる道路管理者と、その可能性について、市民就任以来ずっと意見交換を重ねてきました。また、その核となる人材を育成するために、令和２年４月からは一般社団法人全国道の駅連絡会へ大館市職員を派遣し、情報の収集や関係機関とのパイプづくりに努めてまいりました。また、今年８月には北海道名寄市など産業振興拠点施設を訪問し、地元の首長、関係者と意見交換をするなど調査研究を続けてまいりました。田村議員、ここでぜひ共有させていただきたいと思います。この北海道名寄市への視察をセットしてくれたのは、一義的に北海道開発局であります。ただし、その裏には東北地方整備局、そして本省の道路局がきちんと動いてくれたことがあります。インランドデポというのは内陸型保税蔵置場で、はっきり言えば税の政策なので、第一義的には財務省、税務署です。ところが、それを重ねていくハードとしての道の重要性を大館市は深く考えている。大館市に協力することは、将来の人口が減っていく中でも、日本の国内の物流のレベルアップに相当貢献する道づくりに資する。だったら、インランドデポではないけれども、今北海道で道の駅を拠点にそれぞれの物流を確保するドライバーの負担を軽減させる仕組みの実証実験をしているから、見に来てはどうかと招待があって行ってまいりました。実はこれがすごく重要なことで、今の大館市役所が気づいているのは、たとえ一自治体がつくった政策であっても、国がその政策の正当性あるいは優位性を知ったとき、県や国が一気通貫でつながるのが行政という仕組みだということを、今の大館市役所は知っています。ですので、どんなときにあっても逆境にあっても、今の大館市役所の職員は諦めません。必ず知恵を絞って挑戦します。その積み重ねが一般社団法人全国道の駅連絡会の理事の中の政策担当理事への就任につながったものであります。今後も新たな道の駅の設置に向け、関係者一丸となって取り組んでいきたいと思いますし、どうか視察の際には議会のほうからも協力をしていただきますよう、よろしくお願いを申し上げたいと思います。なお、道の駅の整備に当たっては、国の支援メニューが豊富にございます。国といっても国土交通省だけではないです。今は地方創生を担当している内閣府にも結構予算があり、理事会ではそういうものを活用するということをどこよ

りも早く持ってこれますので、非常に重要だなと思います。こうした本市の強みを生かしたグランドデザイン――将来のビジョン、未来地図を関係者と共同してつくり上げるとともに、事業実施に向けた資金計画、あるいは体制をしっかりと整えていきたいと考えています。田村儀光議員御提言でありました関係事業費の早期予算化につきましては、準備が整い次第、可及的速やかに予算案を上程させていただきたいと考えております。引き続き御指導を賜りますようお願い申し上げます。

大きい項目の２点目であります。私は知事と一緒に海外に行って、秋田県全体のＰＲをするときに、世界自然遺産白神山地を抱く白神山系の東端と世界文化遺産の北海道・北東北縄文遺跡群に囲まれたど真ん中にあり、そこは国の天然記念物秋田犬のふるさとで、渋谷のシンボル忠犬ハチ公のふるさとですと言うと、皆さん必ず身を乗り出して私のプレゼンを聞いてくれます。それぐらいインパクトがあります。ですので、これはぜひ進めたいと思いますが、なぜこの指定がなかなか進まないのか。世界文化遺産ではありますが、北海道・北東北縄文遺跡群が世界文化遺産になるまでなぜあのぐらい時間がかかったのかという裏側を教えてもらうと、一筋縄ではいかないと思います。ちなみに、北海道・北東北縄文遺跡群が文化遺産になるまで、登録してから４年かかっているのですが、その４年でユネスコに申請する文部科学省と文化庁が考えたのは中空土偶なのです。コップを重ねたような形の土偶がありますが、中が空です。実は、その土偶が見つかったのが北海道と北東北。それは津軽海峡を越えてもう交流があったということです。縄文時代というのは１万年続いていて、私たちの日本語の言語、オノマトペも全部豊かな自然と四季折々の暮らしの中で、大和言葉で培われている中での交流を具現化する意味で北海道と北東北がいいのです。その遺跡は１万年の間に寒冷化と温暖化を経験しているので、遺跡も祈りと豊穣を称えるのと、何とか寒くならないようにというものが見えてます。中空の土偶がその象徴なのです。関東や九州の人たちも縄文遺跡はこっちにもあるのに、何で北海道と北東北なのだと怒っていたらしいのです。そういうことがあるので、非常に慎重に進めなければならないということだけは、まず最初に共有したいと思います。そうした中で国立公園というのは、次の世代も同じ感動を味わい楽しむことができるように、この豊かな優れた自然を守り、後世へ伝えていくために国が指定し、保護・管理を担うものです。そして、田村議員御紹介のとおり、現在国内の世界自然遺産のうち知床、小笠原、屋久島、奄美群島の４か所が国立公園に指定されています。白神山地につながる田代岳も含めて国立公園の指定を受けた場合、間違いなく田代岳の保護の利用のための整備も国の直轄事業として実施されることが考えられます。これは非常にいいと思います。また、田代岳の周辺のブランド力、利便性が向上し、登山者、観光客の増加も見込まれます。一方、白神山地は秋田、青森の両県にまたがっております。世界自然遺産に指定されたエリアとその周辺を含めると、関係する自治体は秋田、青森両県のほか８市町村になります。国立公園、国定公園の指定にはユネスコ、国際連合教育科学文化機関や国の動向を留意する必要があると考えています。各自治体や民間団体、地域住

民など多様な力を結集する必要があると考えています。今年、私たちはハチ公生誕100年で盛り上がりましたが、実は世界自然遺産白神山地も30周年の節目なのです。そして、駅が新しくなった関係で今、ＪＲ東日本とは物すごく連携が取れているのですが、実は白神山系の環白神エコツーリズムというのがあるそうです。そこをしっかりと回していければ、もっと盛り上がるだろうと思います。私たちは地元に住んでいるので、いいということをＰＲするのですが、それを例えば国立公園がユネスコの世界自然遺産になると、もっと大きな方々に評価をしてもらうためには、仲間がたくさんいないといけない。そうすると、いつも笑顔で悪口言わないで一緒に遊ぼうという精神が必要になってきます。この環白神エコツーリズムをしっかりと使うという知恵はＪＲから頂きました。また、ＡＮＡ、全日空の井上社長から地域連携研究所の自治体制度の会長として教えていただいたのは、青い翼で北東北にジェットの旅客が就航しているのは大館能代空港だけなのです。ＡＮＡは、グループにＡＮＡＸというお客様のデータを分析する会社があって、大体の富裕層は羽田―大館能代空港間で安比か白神、弘前が目的なのです。そうすると、ＡＮＡは世界自然遺産や国立公園になったときに、青い翼で来てもらう最高の目的地として白神山地、十和田八幡平を挙げているのです。そうすると、私たちだけで動くのではなくて、まずは弘前や能代や五所川原――立佞武多で五所川原と能代はつながっていますが、五能線は一番乗りたいローカル鉄道です。あとは、弘前とはすごく仲いい。まずここをしっかりと取りまとめて、空のパートナーがＡＮＡという体制をきちんとつくった上で持っていったほうが一番いいと思っています。スノーピークが五色湖を高く――山井会長が来て、会長とじっくり話して教えてもらったのは、やはりここがいいということです。世界自然遺産白神山地の東端にあるのをしっかりと見据えた展開が一番いいと考えています。県境を越えた関係自治体、住民の機運の醸成が一番大事だと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○16番（田村儀光君）　議長、16番。

○議長（武田　晋君）　16番。

○16番（田村儀光君）　この場から再質問させていただきます。福原市長は自分でも言いましたけれども、私もあなたと８年半付き合って、福原淳嗣という政治家には、27歳のときから運命的な政治の道を行くレールが既に敷かれていたなと、ただ、永田町行くにはもう３年ぐらい早かったかなというのが私の思っているのです。でも、早いことに越したことはないので、ぜひ永田町に行ったら、今の民主国家の日本を私が変えるのだという意気込みで、大館を変えたのと同じように日本の政治を本当に変えてもらいたいと思っております。自民党とか何党とか何派閥とかそれにこだわることなく、多分行ったばかりでは潰される可能性もありますけれども、若い国会の先生方いっぱいいますので、あなたの人間性で何とかその人と一緒になって、国民のために――日本の民主政治を確立するということは、世界も変わってきます。民主国家、独裁国家はいろいろありますが、民主国家と名乗っているだけで中身はとんでもないやり方の

国があり、日本もそれに近いやり方です。そのおかげで解散もできないでいるような状態です。何とか日本の政治を本当に変えるつもりで、あなたに与えられた定めですと私はそう思っております。あなたをそれだけ高く政治家として評価しておりますので、頑張ってもらいたいと思っております。あと、市長の後継者は心配しなくても頑張ると思います。ただ、手助けは必要です。あなたは今まで大館を変える、大館を中心に秋田も変える、北東北を変えると言ってきた。私は何度も今の永田町、霞が関に風穴を開けてくれとも言ってきました。市長の立場であなたはできると思って言ってきたのですが、今度は市長の立場ではなくて、実際に永田町に入るわけですから、もっとやりやすいし、また永田町から大館を見てもらって、秋田を見てもらって、特に秋田２区を見なければいけないのですけれども、そういう立場であなたの手助けがあれば、私は大館の心配を全然しておりません。本当に大館は変わるし、前にも20年は長生きしたいと言いましたけれども、変わる大館を見たい。今はもうあなたの行き着く場所が決まったので、もう30年は長生きし、100歳まで生きて、大館だけではなくて日本の変わる姿も見てみたいので、何とかそれだけ期待しております。期待しすぎるとプレッシャーではないですけれど……

○議長（武田　晋君）　田村議員、激励ではなく、再質問に移ってもらいたいのですが。

○16番（田村儀光君）　再質問です。あなたの意気込みをまた聞きたいと思っております。

それから大きい項目の２番目。渡部さんは納得したかどうか……あなたがいるうちに何とか国立公園に進むように、永田町に行けばもっとスムーズになると思うのですけども、今言った関係８市町村と、今のうちにそういう土台をつくってもらえれば渡部さんも納得するのではないかなと思いますので、その辺もはっきり答えてもらえればありがたいです。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村儀光議員の再質問とエールにお答えいたします。

まず、後段の観光事業に関してなのでありますが、ちょうど私から渡部さんが見えるのですが、ゆっくりと大きくうなずいてくれましたので納得していただいていると思います。先ほどお答え申し上げた質問をもう一度確認させていただくと、まず、環白神エコツーリズムというネットワークをきちんと再構築に向けて動くこと。ここでキーマンになるのは、私案ではありますが、会長は弘前市がいいと思っています。事務局は大館市がやって、副会長が能代市と黒石市。そういう形でちゃんとつくる流れと合わせて観光交通業界のＪＲ東日本、ＡＮＡ、ＪＡＬとしっかりと連携を組んだ形で動ける組織をつくっていくことが実現に向けての一里塚になるだろうと思います。そこをしっかりと持っていきたいと考えております。

あと、覚悟に関しては、私は市議会議員として、その後の野呂田先生、金田先生の公設第一秘書と政策秘書、そして今は市長として地方政治と国政というのを見て学ばせてもらいました。そこで私が気づいたのは、この間の経営戦略会議でも話したのですが、政府がこの国をよりよ

くしようとするために政策をつくります。でも、その政府が打ち出した政策の本当の本質を理解して、そして自分たちの地域の事情に合わせて、自分たちの地域だけでなく自分たちの地域からつくり出すものが、より広い地域ひいては国もよくするのだ。だから、国が打ち出した政策に対して大館市はこう考えます。つまり、今進めなければならない課題、問題、そういうものに基本的な解答をつくるのが国政です。国会がつくったその基本的な進め方を順守しながらも、応用として未来をつくり出していく政策をつくるのは地方政治だなというのを改めて感じていますし、それを再認識した８年半でありました。ですので、選挙がありますけれども、もし永田町で働くということになった場合、私は現場を知りそして知恵を持つ地方自治体と一緒になって新しい日本をつくっていきたいと思っておりますので、ぜひ御理解と御協力を賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます。

○16番（田村儀光君）　議長、16番。

○議長（武田　晋君）　16番。最後の質問です。

○16番（田村儀光君）　永田町に行っても、さっき言った、いつも笑顔で人の悪口を言わない、一緒に遊ぼう。大館というところをそういうところにしたい、福原淳嗣の人間性だと思っています。観光フォーラムも４年続いてきました。あなたの人間性のおかげでいろんな関係人口で、大館も、随分宣伝になったなと思っております。今年は日本全国の首長、観光庁長官まで来て、その後に行われたＨＡＣＨＩ100フェステバルも成功裏に終わり、渋谷から少年少女合唱団を見て、泣きはしませんでしたけども大変うれしかったです。何百人という人が初めて大館に来たというＨＡＣＨＩ100だったと思っております。よかったと思っております。私は行くものと信じていますので、何とか永田町に行って日本を変えてもらいたい、日本の政治を変えてもらいたい、日本の民主主義とは何かと、そういう政治に向かっていってもらいたいと思います。いつも笑顔で人の悪口を言わない、一緒に遊ぼう。それを国へ行っても貫き通して、必ず仲間が増えると思いますのでよろしくお願いします。以上で質問を終わります。

○議長（武田　晋君）　次に、金谷真弓君の一般質問を許します。

〔19番　金谷真弓君　登壇〕（拍手）

○19番（金谷真弓君）　市民の風の金谷真弓と申します。寒さが一段と身にしみる季節になってまいりました。インフルエンザも例年よりも早く流行しています。皆様、体調には十分留意され御自愛ください。皆様も既に御存じのとおり、市長は新たな挑戦に向かわれます。その決意を受け止め、今後の大館市議会の一議員として、私もしっかり引き継いでまいります。市長も議員一人一人も市民の皆様の代表として選ばれます。二元代表制の下、皆様の生活に関係する重要な事項を十分に審議し改めて取り組んでまいる所存です。今年の春から早８か月。６月、９月の定例会ごとに議場で市長の話し方やその素早い答弁と情報量の多さなど、目の当たりにしてまいりました。そのさまを私に落とし込むには、まだまだ時間がかかると自覚もしたとこ

ろです。市長には、ここ大館を常にふるさとと心にしっかりとめていただきたいと思います。また、私の周りの方々からも応援の声が届いております。新たな挑戦に備え、市長もまた体調には十分御留意されてください。そして現在、コンサルティング会社の病院事業経営強化プランの内容がまだはっきりと分からない、どこまでの進捗状況なのか、まだ厚生常任委員長にも情報が共有されていないこと、同じ厚生常任委員としても心配しております。令和６年の１月か２月にはパブリックコメントを募集して、たくさんの市民の方々から御意見、御要望を頂く予定です。しかし、タイトなスケジュールで、３月での予算決めなど市にとって重要な取決めをする定例会までに十分な議論をする時間が足らない状況であることに、多数の市民の方々は不安を抱いております。18日の地方紙では、本会議終了後に内容説明が開かれるとの記事で、市民の皆様からもどのような方向性になるのかと注目を集めております。私も今回の一般質問で、その内容に触れた質問をする予定でしたが致し方ありません。それでは通告に従い２点の質問をいたします。よろしくお願いいたします。

はじめに、**総合病院と扇田病院の医療機能体制について**です。今後の大館市の医療体制の方向性など、前回までの活発な議論により、総合病院と扇田病院とのそれぞれの役割分担、医療圏が拡大することによって、急性期医療、今建設中の救急救命センターに周辺からたくさんの患者さんが集まることにより、病院事業の向上、医師の技術向上が図られることと同時に、104床あるベッド数と、市民の皆様が安心して入院対応できる病院機能が存在する扇田病院、地域包括ケアシステム、在宅医療をサポートする機関がまだまだ必要とされている事実。両病院の連携の重要性の理解をもっと深めることができました。しかし、非常に大切な政策医療の分野に関しましては、どうしても赤字、不採算部門が出てしまう悩ましい側面が浮き彫りになっている点もあります。命を守る病院、介護など医療関係の皆様に改めて深く感謝申し上げます。また、重要で外せない分野に精神科病棟があります。外来診療においては県北地域の他の精神科病院の中でも屈指の外来患者数を誇り、地域密着型の精神科治療を行っている病棟です。病棟の課題として、老朽化が進んだままの病棟の方向性は検討中ではあると聞いていましたが、もう一度確認させていただきましたら、精神科病棟は継続していくとのことで、私としても大変安心いたしました。何よりも市民の皆様が安心されていると思います。県北地域において精神科病床を有する唯一の総合病院として、難治の統合失調症患者さんにも対応できるクロザピン治療の導入をしています。修正型電気けいれん療法においては、サイマトロンを導入してはいるものの、麻酔科医不足により施行できない状況があるようですが、サイマトロンは保守点検が必要な特定保守管理医療機器とあります。現在はどのような状態になりますでしょうか。また、この医療機器があってもなくても、医療体制に問題は生ずるのか、御意見をお聞かせください。次に、民間にありました透析できる医院が閉じ、透析患者さんの受入れを総合病院で対応しているということです。通常の入院治療とは異なり、定期的に透析を受ける必要があります。今まで火、木、土をワンクール。それがさらに月、水、金と増え、132人対応が

上限のところ現在は120人まで迫っている状況です。透析には週３回、１回の所要時間は４時間から５時間かかり、前後の準備や片づけ、次の患者さん対応など、さらに増えた患者さんの受入れに現場は手いっぱいとのことです。そこで、約20床が現在休床してある扇田病院に、総合病院のサブサポートとして透析患者さんの受入れを御検討されてはいかがでしょうか。地元ニプロの工場で作られているすばらしい技術のダイアライザは世界に誇る医療機器です。透析設備はどうしても高額になりますが、患者さんにとってはそれこそ命に直結します。二次医療圏の広域化に伴って、透析施設の配置や医療提供体制が変わる可能性がございます。その場合の透析患者さんの利便性や安全性を確保するためにも、適切な移行措置先に扇田病院の休床のベッドを活用してはいかがでしょうか。こちらも御意見をお聞かせください。

最後になります。**手話通訳者の育成について**です。市は、大館市手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例を平成31年４月１日に施行しております。大館市手話養成講座は２年で１つのカリキュラムを構成していて、１年目を入門課程、２年目を基礎課程としております。福祉課によりますと、養成講座の大まかな目的は、広く市民の方々に知っていただき多くの参加者を募ることです。今年の講座も16人の参加者が４月の開始から９月頃まで行われます。講座会場は大館市福祉事務所の３階で、夜の７時から２時間行われております。この会場にはウインドファン３台に大型扇風機１台を準備してあります。できればエアコンの設置をとの要望がありました。福祉課からは、エアコン設置の件は既に提出しているとのこと。３月の議会で予算がつくかどうかで決まるとの返答を頂いております。改善に向けた対応をありがとうございます。市には、手話養成講座で学んだ方々が、次のステップ、手話通訳者を目指していけるような、より深く手話を習得させるための人材を育成するという視点に立っていただきたい。窓口でも手話対応できる職員を配置してほしいとの御意見を頂きました。私の友人の息子さんが４歳の誕生日に難聴が分かりました。初めてのことでどのような手続をしたらいいか分からず、当時を振り返ってみれば、自分から情報を取りに行かないと積極的には教えてくれない印象を覚えたと話していました。その後は秋田県立聴覚支援学校を卒業され車の免許も取得し、春から地元の工場に通っております。友人を介し息子さんとも意見を交えながら窓口の対応の希望を尋ねてみましたら、タッチパネル対応してもらえるとスムーズになると思いますとのことです。タッチパネル対応ならもちろん、市民の皆様にも便利なサポートです。もう一つは、聴覚支援学校の先生からもお勧めがあったＵＤトークのアプリであります。ＵＤトークはコミュニケーションのユニバーサルデザインを支援するためのアプリで、音声認識で声を文字化することで聴覚に障害のある方のコミュニケーションを支えるほか、外国語への自動翻訳などで様々なコミュニケーションをサポートします。秋田県内では秋田大学と大仙市が先駆けて取り入れているようです。筆談は時間がかかることと頼みづらさを伴う側面があるようです。人材の育成と同時にこちらも導入の検討をされてはいかがでしょうか。一つ一つ解決と歩み寄りで市民の皆様の御意見、御要望に寄り添える働きを目指したいと

改めて思った次第であります。

手話通訳者の育成とＵＤトークについては市長に、総合病院と扇田病院の医療機能体制については病院事業管理者にお伺いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。御清聴ありがとうございました。**（拍手）**

〔19番　金谷真弓君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの金谷真弓議員の御質問にお答えいたします。まず、お答え申し上げる前に、私の今後の進展につきまして御配慮いただいたエールを賜りました。本当にありがとうございました。改めて申しますが、私の一番最初の選挙のときに、あの狭い事務所に応援に来てくれたことは絶対に私は忘れません。あのときの笑顔と全然変わっていません。これからもどうかよろしくお願い申し上げたいと思います。残された期間は短いですけれども、やはり一緒になって大館の方向性をしっかりと決めていきたいと思います。あともう一つ。私もこういう心境は初めてなのですけれども、今まではどちらかというと国政の選挙というのはふるさとから出すのだという思いはあったのですが、政権与党の候補になった瞬間に、大館から出すということの意味合いをひしひしと感じます。それは大館市以外の、近隣の小坂、鹿角、北秋田市はいいのですが、そうではなく、普段まず生活の中では接点がない能代山本や、特に男鹿南秋に行ったときにそのことをすごく感じます。非常にうれしいのが、男鹿南秋の方々が今の大館は勢いがあるからすごいよね、頼むよと大館をすごく評価してくれている。大館を包む輪ができているなと思います。それに応えられるよう、私は執行機関のトップとして、金谷議員は議決機関、議論をする場所の一員として一緒に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

大項目の１点目に関しましては、医療に関するものは後ほど吉原病院事業管理者からお答え申し上げますが、私からは１点。実は、先月欧州連合日本政府代表部に行ってきたときに――ベルギーのブリュッセル、フランダースの犬のアントワープ、北海とあるのですけれども、メヘレン市というところにニプロインターナショナルという営業の拠点があり、そこに行きました。そこは、ヨーロッパだけでなく何とアフリカ大陸と中東の営業拠点なのです。扱っているものは透析のキットですが、ダイアライザは二井田の工場で作っているのです。これがないとできないのです。もう一つは、これと同じぐらいのＩＴ機器で操作するのです。そのときに、必ずいろんな症状を持った方が透析されるので、具合が悪くなったときにどういう対応をすればいいのかというのを、ニプロが大学の先生や病院のスタッフと講習する学校があるのです。私たちは工場と本社しか見てなかったけれども、実際、ニプロのダイアライザと透析というサービスが、今後、食の西洋化でどんどん急進していくそうです。そうなってくると、トータルなサービスとして地域が関わってくることは非常に重要だという認識を産業政策上も持っているということを、まずは共有させていただきたいと思います。

それでは、大項目の２点目です。金谷議員御指摘の手話奉仕員養成講座の会場の環境は、会場の変更を含め検討しております。御安心いただきたいと思います。そして、手話による対応ができる職員の配置につきましては、大館市聴力障害者会からも同様の要望を頂いております。私は行政報告のときに、ありがとうございましたとか、おはようございますとかはできるようにしています。そうでないと、やはり広がっていかないと思います。市への配置なのですけども、手話通訳士の資格を有している方が少ないというのが大きな課題です。有資格者の情報を含めて、市内の手話サークル、秋田県聴覚障害者支援センターなどの関係機関と協議をして検討していきたいと考えています。大館市では、大館市手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例を定めました。ちょうど４年半前の３月議会で決めたのです。そのときに後ろに応援する皆さんがいたのです。それで終わった後に市長と一緒に記念写真を撮りたいと、それぐらいニーズがある。実はこの条例は秋田県内初です。それは先導的共生社会ホストタウンになった大館の矜持です。ですので、定例会の行政報告での手話通訳のほか窓口対応においても筆談コミュニケーション支援ボードを使っていますが、今、金谷議員御提案のＵＤアプリ等、コミュニケーションをさらに積極的に促すための仕組みは導入に向けて検討します。御期待いただきたいと思います。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

○病院事業管理者（吉原秀一君）　それでは、ただいまの金谷議員の質問にお答えしたいと思います。まず、精神科病棟のこと心配していただき本当にありがとうございます。私が今、一番心配してるのはやはり精神科病棟です。何しろ古い。築40年以上です。当時は120床、今は60床で運営していますから、非常に大きな建物に少ない人数の入院ベッドで、非常に古い造りになっています。というのは、昔、精神患者というのは世間から隔絶して世間から目に触れないように、下手すると一生そこに入院させておくというような医療が行われておりました。ここ10年で大きく変化して、慢性期の精神病は地域に返しましょうというような治療方針に変わってきています。ですから、今診ているのは急性期の精神科医療で、あまりベッド数は必要ない状況であります。ただ、造りがそういう造りですから、新しい精神科医療に対応する病棟ではありません。ただ、残念ながら精神科というのは非常に赤字を生む医療です。約10年前から改築を計画しております。その当時で10数億円の費用がかかる。今では、さらにその３割増しになると思います。そういう状況で一番の懸念は医師の確保です。約５年前に医局の事情で医師が１人だけになりました。これはとても入院治療ができない状態で、今は何とかいろいろ努力した結果2.5人まで増えました。何とかこの状態であると維持できるのですけど、できれば４人ほどいないと正常な救急精神科医療は難しい状況になります。この辺の状況については、伊藤深雪議員が管理者として非常に御苦労されたのでよく御存じだと思います。人員の確保の安定が図れた段階でなければ新規の事業は難しいと考えています。では何を決定するのかというとやはり医局の事情です。当初１人のときは、弘前大学の精神科医局の事情で１人になった

のですけれども、その後いろいろ努力して、今、秋田大学からも１人派遣されております。この辺で秋田、弘前両大学の医局の事情が向上すればさらに人の派遣は可能かと思いますけれども、その時期とかについては、ここではちょっと言明できません。ということで、人員の確保がまず第一です。その後に確保が安定化すれば事業として、ぜひ更新を図りたいと思っています。今後、３医療圏になります。ますます救急精神医療、急性期精神医療の需要は高まりますので、当院の役割はますます大きくなると思います。今後ともその中心的な役割を担っていくということで、維持はもちろんのこと将来に向けて建て替えをぜひ推進していきたいと思いますので、議員の皆さんは赤字に関わらずその辺を応援いただければと思っていますので、今後とも注視していただければと思っています。透析ということで２点目。もちろん、市内の透析施設の突然の閉鎖ということで、非常に苦労しました。全透析患者は当院を中心に受入れを完了して、それに伴って現場の苦労は大変だったもので、ただ、それは透析部門だけが苦労しているわけではなくて、その部分を補完するように全体の看護職員の配置を見直したり対応して何とかやっていますけども、やはり人員不足は大きいです。今の時点では、看護職員だけではなく診療看護師、臨床工学士などを活用してその負担を軽減するようにしていますが、やはり負担が大きい状態で、金谷議員が申すように例えば扇田病院で20床持っていただければ、これは非常に助かります。ただ、その最大のハードルはやはり医師なのです。20床といえども24時間管理が必要になります。ですから、１人の医師では無理なのです。できれば３人以上いなければ24時間透析患者を診るのは難しいです。今、３人の泌尿器科医を揃えるということは不可能です。当院は４人の泌尿器科の専門医がおりますけれども、４人でも120人の患者を持つのは非常に厳しい状態です。これも医局事情で医師さえいれば、そういう構想は幾らでも可能になりますけども、この状況で医師を確保するというのは非常に難しいということですから、医師確保の観点でそれはかなり今の状況では難しいと思います。ということで、今、綱渡りの状態で132人の余力はあるとはいえ120人です。時々、急に透析が必要な患者が出てきます。そういう意味でも、もう少し余裕が欲しいところなのですけども、まず、ぎりぎりの医師でやっているということを御理解いただければと思います。医師確保については常に努力しており、少なくとも研修医については、今年も県内で一番ここの病院が多く来ることができました。ただし、それが専門医につながるまでには、やはり数年かかるのです。当院の研修を終えた医師が専門医として徐々に戻ってきておりますので、もう少し時間がかかると考えています。当院は明治12年開院以来、約150年にわたって最大の問題は常に医師不足です。ですから、その辺もぜひ御勘案いただいて何とか御理解いただけるように、今後も応援いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○19番（金谷真弓君）　議長、19番。

○議長（武田　晋君）　19番。

○19番（金谷真弓君）　市長と病院管理者から御答弁いただき本当にありがとうございます。

手話の件に関しては、御検討いただけるということだったので、ぜひよろしくお願いいたします。

あと、病院のほうの問題は常に医師の確保が大変だということを、いろいろ調べる上でよく分かりましたので、今後とも、ぜひ確保をよろしくお願いしたいと思います。ちょっとまとめて言ってしまいましたが、私のお願いということで。では、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（武田　晋君）　次に、工藤賢一君の一般質問を許します。

〔20番　工藤賢一君　登壇〕（拍手）

○20番（工藤賢一君）　おはようございます。市民の風の工藤賢一です。実は私の質問は田村儀光議員とちょっとダブるところがありますけれども、直前に質問内容をノー原稿に変えることはちょっとできないので、重複する点は御容赦ください。大館市議会９月定例会最終日である９月28日、衝撃のニュースが大館市内、秋田県内を駆け巡りました。９月定例会終了後に開催された自民党大館支部常任総務会において、次期衆院選秋田２区の候補者として自由民主党大館支部は大館市長現職である福原市長を推薦すると決定したというニュースでございます。衆議院の今期の任期は令和７年10月30日。大館市長選は本年４月に実施されたばかりですから、このニュースによって現職市長が任期内に市長の職を辞して国政に転身を目指すことが明らかになったわけであります。私は、本年４月に初当選し、６月の一般質問冒頭において「市民の審判を経て見事に３選を果たされた福原市長、今後４年間はこの場で様々な課題について議論させていただくことになります。どうぞよろしくお願い申し上げます」とお声をかけさせていただきました。政策通で日本全国に豊富な人脈があり、現場の意見に耳を傾けながら大館にかける熱い思いをノー原稿で語る市長と議会の場で議論できることは、市議として楽しみであり、自らを成長させる貴重な機会になるものと確信したからであります。ですから、９月28日に報道された内容は個人的にとても衝撃を受けました。しかし、私以上にショックを受けたのは、４月の市長選において今後４年間のかじ取りを託した大館市民ではないでしょうか。私は今年初当選の新人政治家ではありますが、政治家としての経験が豊富な市長が、政治家としての集大成として国政を目指したいというお気持ちは理解することはできます。しかし、そのために任期途中、それも改選後半年で国政への転身を表明されたことで多くの市民は不安を感じたのではないでしょうか。政治家は自らの政治姿勢について、その理念を語り主張を訴えることが何より重要であり、異なる主張を公の場で議論することで民主主義の発展が目指せるものと確信しております。市長におかれましては、不安の気持ちを抱いている市民の声をしっかりと受け止め、国政にかける熱い思いを直接語っていただきたいと願うものであります。それでは通告に従い質問させていただきます。

質問大項目の１点目、最初の質問は**市長が国政転身のため辞職することによる市政への影響**

についてであります。冒頭で述べたとおり、現衆議院の任期は残り２年を切りました。従いまして、次期衆院選に出馬することは、その前に市長の職を辞することを意味するわけです。そうなると、これが市政にどれだけ影響するのか、そのことを考えないわけにはいかないのです。そこでお尋ねしたいのは、市長が６月定例会所信表明で明らかにされた、４つの政策の柱の進捗及び目標達成状況の自己評価と辞職後の展望についてであります。４つの政策の柱とは、１、ひと・ものが行き交う北東北の拠点をつくる、２、国や県と強固に連携した医療環境をつくる、３、こどもたちに世界の架け橋をつくる、４、暮らしとまちを未来に導く羅針盤をつくるでありますが、これら主要政策について、特に、１、ひと・ものが行き交う北東北の拠点づくりにつきましては、市長の政策が実を結びつつあり、順調に進捗しているように思われますが、緒に就いたばかりの政策、課題が残る政策も多くあるのではないかと考えるものです。業務の遂行に当たっては、ＢＣＰという観点から不測の事態に対応する体制の構築が求められますし、仕事は一人でやるものではなく、スタッフ・チームでの協働が重要になるわけですが、そうであるからこそ、正当な自己評価と課題を明らかにした上での引継ぎというものが重要になるものと考えます。主要政策について、現時点でのそれぞれの政策の進捗及び目標達成状況の自己評価についてお聞かせください。そして、市長が国政転身を成し遂げた後、大館市政で示した主要な政策を国会における活動にどのようにつなげていかれるのか、現時点でお答えできる範囲内で結構ですのでお示しいただきたいと思います。市民が安心して市長にエールを送ることができるよう、よろしくお願い申し上げます。次にお伺いしたいのは、令和６年度予算編成に関する質問です。令和５年度の当初予算編成は骨格予算としてスタートいたしました。骨格予算と言いますのは、一般的には地方公共団体の首長選挙がある年の予算編成に当たっては、政策的経費の予算計上を避け、市民生活に影響が出る経常的な経費を予算化することを言います。もちろん、リーダーが変われば方針も変わりますので、ある意味やむを得ないシステムでもあるわけですが、これが２年続くことになると様々な弊害が出るのではないかという心配もあるわけです。例えば、新規事業であっても政策的に異論が出にくい事業については予算編成に加えてもよいのではないかと考えるものです。令和６年度予算編成における基本方針、特に骨格予算であるのかどうか、予算要求基準、いわゆるシーリング設定があるのかどうかについてもお聞かせください。そして、担当直入にお聞きします。国政転身のため、市長としての職を辞する時期についてお聞きしたいと思います。年度内に衆議院が解散された場合、どうされますのでしょうか。解散に合わせ議長に辞職願を提出されるのでしょうか。現時点での市長のお考えをお聞かせください。非常にお答えにくい質問かと思いますが、その後の政治日程にも密接に影響し、市民の関心もとても高く、また次期市長選挙に当たっては既に同僚議員が出馬を表明されており、市議補選も想定されるわけですので、よろしくお願い申し上げます。

大項目２点目、次にお聞きしたいのは**大館市病院事業経営強化プランについて**であります。既に本質問は６月にもしておりますが、その後、様々な進捗等もあったと思われますので、改

めて内容を変えて質問するものです。大館市病院事業経営強化プランは、６月定例会厚生常任委員会に提出された資料によりますと、本12月定例会に本プランの素案が提出される予定になっています。従いまして、明日の常任委員会でその内容が明らかにされると思いますので、その内容に注目したいとは思いますが、一方、今年１月に受託業者が決定した大館市病院事業経営強化プラン策定支援等業務の仕様書によりますと、受託業者からの成果物として10月末日までに業者が作成した素案を提出することを求めております。もちろん、この素案は受託したコンサル業者が大館市病院事業宛てに成果物として納品したものですので、当然、その業者作成の素案をベースとして、病院事業としての素案を作成し、それが明日、明らかにされるのだと思います。そこでお願いしたいのが、コンサル業者からの成果物としての素案の公表でございます。実はこの点で私は若干認識のそごがございました。当然このコンサル業者からの成果物としての素案について12月定例会の開会前に提示があるものと思っておりました。この病院事業経営強化プランは今まで市で策定した様々な計画と同様に、いや、それ以上に市民に注目される計画であり、その計画の策定に遺漏なきよう、1,397万円もの金額を投じてコンサル業者に委託した一大プロジェクトです。市民にその内容を公表すべきと考えますがいかがでしょうか。そして、コンサル業者から提示された素案と明日提示される病院事業で策定した素案の内容に違いがあるとすれば、その点について説明すべきと考えます。何となれば差異を補正・修正したのだとすればその根拠があるはずだからです。なぜこの点の修正したのか、なぜ補強するのか、あるいはなぜこの点を削除するのかなど、当然そこには病院事業を運営する市としての意思と根拠があるはずだからです。大館市病院事業経営強化プラン策定支援等業務受託業者から提出された病院事業宛ての成果物、とりわけ10月末に提出された素案の公表について病院事業管理者のお考えをお聞かせください。次にお尋ねしたいのは、病院事業経営強化プランと他の事業との相関であります。来年は第９期介護保険事業計画がスタートする年でもありますが、これに先駆け、今、福祉部では将来の介護サービス供給体制の調査・分析の作業に着手されており、この中で、大館市のあるべき姿の検討、大館市のあるべき姿の絞り込みにおいては在宅医療・介護連携推進協議会との共有・討議により行うこととされております。コロナ禍で活動が中断していた大館市在宅医療・介護連携推進協議会は今年再スタートし、病院事業経営強化プランの策定に当たっても、本協議会の意見を踏まえて行うことになっております。つまり、大館市病院事業経営強化プランの内容は、在宅医療・介護連携推進協議会を通じて介護保険事業計画にも密接につながっていくことになるわけです。素案策定後は本協議会に迅速に情報提供するとともに、そこで討議された議論の結果・御意見をしっかり計画にフィードバックされますよう求めるものです。この点に関し、市長のお考えをお聞かせください。

大項目３点目、**扇田病院について**質問させていただきます。最初に一つお尋ねしたいと思います。市長と病院事業管理者は2024年の惑星直列という言葉は御存じでしょうか。もちろん天文学上、惑星が同じ方向に横並びになる、あの惑星直列が2024年に到来するというわけではあ

りません。2024年には保険医療における診療報酬、介護保険における介護報酬、障害福祉分野における障害福祉サービス報酬の３つの報酬が同時に改定されるのです。これだけではありません。第８次医療計画、第９期介護保険事業計画、第４期医療費適正化計画など医療関連の重要な計画がスタートする年でもあります。さらに最も注目されるのは、医師の働き方改革がスタートする年でもあります。つまり、地域包括ケアシステムが完成する2025年の総仕上げとして、2024年に様々なビッグイベントが予定されているわけです。そうした中で、病院事業経営強化プランが策定されるのも何やら因縁めいたものを感じるわけですが、今後の地域医療に極めて重要な意義を持つものといえます。そこでその節目に当たり、扇田病院の地域において求められる形態として、慢性期多機能病院としての再生・存続を求めるものであります。慢性期多機能病院という言葉は耳慣れない言葉ではありますが、一般的に急性期後の療養、いわゆるポストアキュートや、訪問診療・訪問看護など在宅医療を利用している患者の急変時に対応するサブアキュート機能に対応する病院として専ら中小病院が担うものとされ、急性期医療機関、診療所、介護機関とともに地域包括ケアを支える核となるべき病院のことを指しております。2005年に厚労省より打ち出された地域包括ケアシステムの考え方のベースにあるのは、少子高齢化の到来に備え、持続可能な社会保障システムとして機能分化と連携により社会保障の負担を軽減しながらもしっかりと住民を支える手法として打ち出された考え方であります。地域医療構想における病床削減もこの考え方と通底するものがあります。出来高払い方式で高騰した医療費、人口減少で過剰となったベッドを削減するため地域医療構想で病床削減が打ち出されたわけですが、2019年に厚労省で公表した再編統合に特に議論が必要とされた424病院、この中には扇田病院も含まれていたわけですが、このリストはあくまでも急性期の機能に着目したリストであることを再認識すべきと考えます。そして、これらスリム化した急性期病院とともに、回復期病床・療養病床をバランスよく配置することで、効率的で持続可能な医療提供体制を構築しようとしたのが、地域包括ケアシステムにおける医療再編の考え方でありました。そのような回復期病床・療養病床を地域のニーズ・実態に合わせ、急性期医療機関、診療所とともに地域を支えるのが慢性期多機能病院であり、まさに、高齢者が要介護状態となり、医療ニーズが必要となっても、住み慣れた地域に暮らすために必要な医療機関と考えます。今年秋田県では二次医療圏の再編を決定し、従来の８医療圏から３医療圏へと広域化することになりました。大館は県北医療圏に位置しますが、広大なエリアに再編することによりアクセスに関する不安は残るものの、総合病院にあっては地域における急性期医療機関としての機能集約という点ではより高度化が期待でき、人的資源の集約が期待できるという評価もできると思います。二次医療圏が広域化されることにより、急性期や高度急性期を担う病院はより専門性を高め、診療報酬上の総合入院体制加算や急性期充実体制加算を算定できる医療機関として整備するとともにＤＰＣ病院としての医療機関別係数のアップも期待でき、診療単価の改善を図る可能性が広がり、経営改善に直結すると考えますが、これらの加算を算定するためには地域包括

ケア病床や療養病床を有していないことが条件とされています。つまり、急性期病院に療養期・回復期を担う地域包括ケア病床、療養病床を配したいわゆるケアミックス型医療機関は診療報酬上の効果が上げにくくなり経営に影響を与えることが予想されますので、やはり地域包括ケア病床は在宅医療を支える中小病院、つまり慢性期多機能病院で運用することが最適と考えるものであります。地域包括ケアシステムを支え、コロナ禍の中で急性期医療機関からの患者の転院を受け入れる、入院調整を支援する、言わばバッファーとしての役割が期待できる扇田病院は、急性期を担い広域化した二次医療圏の中で中核的に役割を担う総合病院とともに、地域でなくてはならならい医療施設であり、改めて慢性期多機能病院としての存続を求めるものであります。詳細については、明日の厚生常任委員会で明らかにされるとは思いますが、現時点で市長、病院事業管理者のお考えをお聞かせください。

以上、私からの一般質問といたします。御清聴ありがとうございました。**（拍手）**

〔20番　工藤賢一君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの工藤賢一議員の御質問にお答えいたします。市長就任以来「匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく未来創造都市」を目指し、本当に全力で頑張ってきたところです。そして、福原市政の３期目でありますが、新たな４つの政策の柱、今御紹介いただきました「暮らしをつないで内に優しく、まちをつないで外に強く」を政策の方向性に掲げながら、これまで取組をさらに深化・拡大そして進化させてきたところであります。今、選挙のときに頒布する物を持ってきていますが、ひと・ものが行き交う北東北の拠点をつくる、国や県と強固に連携した医療環境をつくる、こどもたちに世界の架け橋をつくる、暮らしとまちを未来に導くシラバスをつくる。一つ一つは言いません。ただし、大体７割は緒に就いて進めているなというところがあります。その中でも特に第４回秋田広域観光フォーラムの開催。現職の観光庁長官にお越しいただきました。あとは、包括的民間委託はあまり取り上げられないのですが、大館市建設部のスタイルというのは、将来、秋田どころか北東北に広がっていく新しい公共事業の形をつくりつつあります。同じく大館版ｍｏｂｉプロジェクトも評価されています。道路交通法を先取りする形で大館が今実証していますが、ぜひ実装に向けて頑張りたいと思っております。大館駅インランドデポ構想。先進的な取組は、今県を越え国にも評価されております。あとはＨＡＣＨＩ100であります。政策の方向性いわゆる志を同じくする自治体、企業との関係性の構築にも注力してきました。また、私はわざと言わないのですが、実はこの政策の実現で一番のポイントはここなのです。暮らしとまちを未来に導く羅針盤をつくるなのです。特にここの「行革の目的は人減らしでない。人材を育成する」「政府機関、大学、企業、先進自治体職員が研修できる場所と機会を増やす」「副業可、副収入も可。多様な働き方がまちの生産性と競争力を高める」「人流、物流戦略は戦国大名毛利元就に、大館暮らしの未来形は北欧に、スカンジナビア半島にヒントがある」「国や県と連携して流域治水勉強

会を立ち上げ、治水・利水のまち大館をつくる」――最後はもうやっています。ですが、今申し上げた４つが、先ほど田村儀光議員のところでも申し上げましたとおり、行政組織として本質は何なのか。これからどんどん減っていくけれども、先ほど申し上げたとおり公務員の数は圧倒的に少ない。その中で答えていかなければならないパブリックサーバント、公僕としての役割は変わっていく。そこについて大館の方向性はこうですということが一番の要です。この「暮らしとまちを未来に導く羅針盤づくり」が現在策定を進めております本市の次期総合計画となります。この次期総合計画はこれまでとつくり方を一変させています。計画のための計画ではありません。私のキャッチフレーズは、昨日も申し上げましたが、中期経営計画は捨てて現場に出ようです。計画のための計画ではない。むしろ、都度上げたプロジェクトが求められる。そのときに即応性を持って対応できる、これまでにない行政組織をつくるというのがその目標になります。次期総合計画でありますが、現計画の本市の目指すべき将来像を継承はしますが、多様性いわゆる「違い」を力に変えていく、新たな目指すべき姿を掲げていきたい。「違い」を力に変えるであります。先導的共生社会ホストタウンとして進めていかなければならないと思っております。本市の持続可能なまちづくりに向けて、これまでの取組を礎として新たな視点を加えた羅針盤をつくり上げ磨き上げて、次の世代に引き継ぐことが私に託された使命であると感じております。小項目の２点目でありますが、令和６年度の当初予算の編成に際し、まず基本方針としてポストコロナに向けた地域経済活性化の推進等、３つの基本方針を掲げまして、10月の政策協議では、ひと・ものが行き交う北東北の拠点、国、県と強固に連携した医療環境など、先ほど申し上げた４つの重点項目を踏まえた方向性を改めて指示したところであります。これまでの議会の審議の内容、議員の先生からの御提言、御提案、そして市民要望に留意しながら、地域経済の好循環そして市民の暮らしやすくなる施策を最優先といたします。これまでの集大成となる予算をしっかりと私の責任で編成いたします。小項目の３点目であります。退職の時期につきましては重ねて申し上げますが、市政への影響が最小限になるよう都度判断をしてまいります。

大きい項目の２点目、３点目につきましては、吉原病院事業管理者からお答えを申し上げますが、私からは１点。国や県と強固に連携した医療環境の実現で一番重要なのは、工藤議員自らが御指摘をされております二次医療圏が８つから３つになったこと。これは、はっきり言います。医療圏が５つだと思って集約されるだろうということを想定して、この政策をつくっていました。ところが、それが３つです。これは非常に大きいと思います。また、先ほど申し上げましたとおり、県との政策協議の場において一番重要なのは、青森県や岩手県と違って県立病院を持たない秋田において、県北で自治体病院を持っているのは我が大館だけだということ。そして、その大館が病院事業経営強化プランを策定するに際し、私は公約にも入れていますが、医療と介護と生活支援という福祉の連携をしっかりと考えたものにするということをうたっています。今大館が策定し、明日、担当の委員会にかけるその強化プランというのは、ただ単に

大館だけではなく、県北全体の医療と介護の生活支援の方向性を示す、まさに土台になるものだということをぜひ御理解いただきたいと思います。

私からは以上となります。どうか御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○病院事業管理者（吉原秀一君）　ただいま工藤賢一議員の質問にお答えしたいと思います。まず、強化プランの素案の公表ということですけども、これは結論から言うとできません。理由は３つあります。１つ目は公表を前提として契約が結ばれておりません。行政書士ですからよく分かると思いますけども、契約を不履行するということは非常に重大なことですので、それができないということです。２つ目は調査するに当たって、非常に多くの診療所、介護施設に行っていただきました。そのときに公表しないということで、各施設の本音を頂いております。本音を頂くためには公表が前提であればできなかったということです。ですから、この素案自体がスポイルされてしまいます。３つ目は素案を当事業が公表した場合、当事業の意見としてそれが取られるということです。あくまでも素案を中心にして、事業体が吟味してさらに改編して出すものが事業体の意見でありますから、そのまま出すということは、事業体としての意見と取られかねないということが懸念されますので、それはやめたいということで、３つの理由から公表はしないということです。次に、強化プラン策定後の在宅医療・介護連携推進協議会への諮問ということで、これはもちろん強化プランが明日委員会で公表された後には、まず地域医療構想会議に出します。その次に、在宅医療・介護連携推進協議会に出します。さらにパブリックコメントを頂いた上で、これらの意見を集約して最終的なプランを策定予定ですから、これはやります。

３つ目の扇田病院の今後についてですけども、その概要は明日の策定プランに書いております。ただ、全体的なお話として、医療圏が拡大します。拡大の最大の目的は医療の集約です。集約化することによって急性期医療を守るということです。ただ、集約化というのは均てん化と逆の意味をなします。ところが、住民が今一番欲しいのは均てん化なのです。すぐにかかれる医療で、この２つをいかにバランスを取るのかというのが非常に大事になってきます。それについては、今ここでは申しませんけども、いろんな計画を今しております。両者は相反する事項でありますけども、それをいかに解決するのかというのは、やはり新しい考え方が必要になると思います。また、工藤議員から御提案いただいた地域加算それから総合加算を取ればいいのではないかと。確かにそのとおりです。国はその前提として医療を急性期は急性期、慢性期は慢性期、地域包括の基準で細分化して、それぞれに専念させて医療の効率化を図ろうとしています。これは国の方策でありますけれども、あくまで都会の理論です。そこには多くの一次医療、二次医療、三次医療があって、ピラミッドが形成されているところではそういうことは可能ですけども、当地域のように医療資源が限られている中で、それをやるには非常にそごがあります。もちろん経営的にはそのように国が設定していますからそのようにするのが一番いいのですけれども、やはり急性期といえども当院に来る急性期患者は高齢者が多いです。入

院する段階で既に慢性期の疾患を多数持っております。急性期病院といえども慢性期に対応できないと現場は混乱するし何より市民が困ります。ですから、市民の健康状況や疾病状況を緩和する上では、やはり今後はケアミックスでないと対応できない。でなければ、市民は急性期を終わって、次は包括ケア、慢性期、さらに介護施設と何回も転院しなければいけないのです。ですから、ある程度地域の住民に対して総合的に診るような力がないと今後は駄目で、これは今後の日本は必ずそうなってきます。大館は秋田県でも最も高齢化、医師不足が進んでいるところです。ですから、ここがうまくいくようなシステムこそ、今後日本で取るべき政策だと思っています。工藤議員がおっしゃるようなこととは逆行しますけれども、やはり地域に根差して、地域に最も適した医療政策を今後取りたいと思っております。また、この具体的内容については明日お話しいたしますので、よろしく御理解のほどお願いいたします。

○20番（工藤賢一君）　議長、20番。

○議長（武田　晋君）　20番。

○20番（工藤賢一君）　それでは、再質問させていただきます。一問一答でお願いします。

まず、大きな項目第１点目ですけども、市長、丁寧に御答弁いただきまして、ありがとうございます。私が非常に残念なのは、もっと議論したかったということでございます。お気持ちはよく分かりました。まず退職の時期については、やはりなかなか微妙な問題があると思いますし、明言できないというか当然難しいとは思います。先ほど一番気になったのは、主要政策が今後どのように――市長が変われば当然主張する政策も変わるわけですけれども、継続が必要となる事業もありますので、その点については、当然ＢＣＰという観点からもしっかりやっていかなければならないし、その点についてはお話がありましたので、ありがとうございました。あと予算編成に関しまして、骨格予算という言葉使わなかったのですけれど、骨格予算とあえて使わないということでよろしいですね。そこら辺について併せて再度御答弁お願いします。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの工藤賢一議員の再質問にお答えをいたします。それは、私の中で市長としてするべき最後の仕事と申し上げますか、そういう意味では、まず、病院事業強化プランをしっかりと私の手ででかすこと。そして、次年度予算編成方針を出しましたので、それをしっかりと形にする。そこまでが私が託された仕事だと、現段階ではこのように申し上げていいのかと考えております。

○20番（工藤賢一君）　議長、20番。

○議長（武田　晋君）　20番。

○20番（工藤賢一君）　それでは次に、大項目２点目について再質問をさせていただきたいと思います。大館市病院事業経営強化プランについて、管理者から御答弁いただきました。以前

から感じているのですが、ベースとなっている地域医療の環境とか人口減とか少子化の状況については多分共有していると思うのですけれども、私が一番危惧するのが、国の政策と逆行してケアミックス化を図ることで、総合病院の負担が今以上に増えるのではないかというのがまず一つの懸念です。それともう一つ考えるのが、この地域におきましては当然要介護状態の高齢者の方はこれからもどんどん増えていきますが、その後にお亡くなりになる方がすごく増えていく。あまり表現としてはふさわしいかどうか分かりませんけども、多死時代に突入することが想定されます。そうしますと、地域に密着した特に在宅医療を担う医療機関とか訪問診療とか訪問看護、それから、それに密接に連携した訪問介護というものが非常に重要になってきます。そうしたものに対応するためには、やはり在宅療養支援病院としての扇田病院の位置づけというのは非常に重要になると思われます。この点について、ぜひ管理者から再度答弁をお願いします。

○病院事業管理者（吉原秀一君）　議長。

○議長（武田　晋君）　病院事業管理者

○病院事業管理者（吉原秀一君）　それについては、明日の発表に大分回答が書いてあるのですけども、今欲しいのは、そういう要介護状態の方でもかなり専門医の力が必要だということです。具体的に言いますと、要介護の状態の方でもがんになるとか何度も肺炎を繰り返すとか、それから心不全が強いとかです。これはやはり専門医が関わらないと治療が進まないです。そういう意味では、総合病院の力は非常に大事です。ですから、そういう要介護状態の慢性期の方々に専門医が関わることは非効率です。でも、これは住民の命と幸せをもう少し実現したいと思っています。現場の医師はそれに対して文句を言う人はいません。忙しくなりますが、我々の力が必要であれば治療効果は上がらないけども、それには対応したいと現場は思っていますので、ぜひ現場の医師を信頼して、その辺は任せていただければと思います。以上です。

○20番（工藤賢一君）　議長、20番。

○議長（武田　晋君）　20番。

○20番（工藤賢一君）　ありがとうございました。素案がないのでこれ以上お話することは難しいかなと思います。明日以降の議論を楽しみにしたいと思いますが、ぜひ今後とも情報共有と専門職関係者の御意見を大切にして、さらに市民からの御意見をちゃんと吸い上げていくという姿勢を守っていただきたいなと話をいたしまして、私からの一般質問を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（武田　晋君）　この際、議事の都合により休憩いたします。

午前11時55分　　休　　憩

午後１時30分　　再　　開

○議長（武田　晋君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

田村秀雄君の一般質問を許します。

〔15番　田村秀雄君　登壇〕（拍手）

○15番（田村秀雄君）　真政会の田村秀雄です。よろしくお願いいたします。それでは一般質問に入りたいと思いますが、身近な問題等で市長の答弁をお聞きしたいと思います。その前に、今年は100ＨＡＣＨＩで大館市はいろんな面で非常に頑張って、また、我が大館のみならず、秋田県、それから全国、そして世界までもハチ公の名前がとどろき、改めて忠犬ハチ公が分かったという人もかなりいると思います。この100ＨＡＣＨＩのイベントで市民も大変盛り上がったし、また、秋田県も大館市が非常に頑張っているなというイメージが大変分かり、さらにハチ公をもっと大事にしたいなという気持ちが盛り上がったのではないかと思っております。そういう面で100周年の意味が非常に大きかったと思っております。そこで、私からは身近にある問題点を思い直して５点ほど質問したいと思っております。

まず、１つ目は**水田活用の直接支払交付金の厳格化について**。これについては、以前にも質問しておりますけれども、５年という区切りで、３年もあれば農家に非常に多大な影響があるという国の施策であります。特に秋田県もしくは大館市においても、農家からこれを心配する声が非常に大きいものであります。この中身は５年間水田に水張りをしていない田んぼは、この交付金が認められない。１回でも水張りをしていればいいけれども、水張りをしない田んぼは交付金の対象にならないということであります。今まで国は減反政策の中で畑作物と水田を両立して、農家の経営をスムーズにする対策であったものだと思っておりますが、何せ国はころころ施策が変わる。今まで農家はそれに大変影響されてきましたので、この交付金に対して農家は非常に心配しております。今まで頑張って田んぼから畑作物に移転して、いろいろな排水対策をしながら農作物を何とかやってきたという中にあって、もう３年ほどでこの５年という制限が迫るわけですけれども、その交付金が出ないということになったとき、どうすればいいのだと農家の心配があります。ひどく言うと、これがなくなれば田んぼをつくるのをやめてもいいという農家が多いわけでして、特に私の近くの集落にいる農家は、現在１集落に１人ぐらいしか田んぼをつくっている人がいない。うちの地域、学区と言いますけれども、そこではもう４人ぐらいしかまともに農家をやっている人がいないという現状であります。それがさらにこういうことになると、もう明日から辞めようかという声が聞かれております。ですから、もう10年もすれば農家をやる人がいなくなるのではないかというおそれがあります。農家離れが非常に加速化するということで、そういうことに対して市では対策をどのように考えているかということであります。

２つ目は**スマート農業の推進など、生産の低コスト化、軽労化の取組について**あります。高齢化と後継者不足が進む中で、ＧＰＳを利用した自動運転などに対する市の支援策はということでありますが、市では２年前にドローンなどの機種に対して非常に大きな支援策がありまし

た。さらに今、国でもその支援策をいろいろ考えておりますけれども、何せ農家の機材や機械は1,000万円単位の機械がいっぱいあります。幾ら自動化と言ってもそういう機械を簡単に用意するのは到底厳しい状況にあります。ましてや、個々の小さい農家であればそういう機材を新しく用意するということは厳しいことになります。幾ら自動化で楽になっても機材が高ければ手が出ない。そして、さらに農機具が古くなったからといって、そろそろ買い換えようかというときに、この何千万円もする機械には到底手が出ないのでありますから、もうこの機会に農家を辞めようかという状況にあります。確かにスマート農業は必要不可欠であります。２、３日前にもテレビでスマート農業を進めて機械化して、これからの農業を守るのだという報道がありました。それはそのとおりですが、やはり農家の負担が大きいということで、いろいろな方法があると思います。例えば自動運転でも、後づけの自動運転になる器具があります。そういうことも含めて、農家はあまり投資が大きいと農家は厳しいですから、その機材を幾らかでも農家の負担が少なくなるような施策を考えてほしいと思います。そういうことで、ＧＰＳを利用した自動運転の機材は必要ですが、それに対する支援策がないと農家はそこを乗り越えられないということになりますので、そこら辺の支援策は考えているかどうかということであります。

それから、大きく３点目。**熊、イノシシ、猿などによる農作物の被害、人的被害について**ということであります。これもまた自分のところでは豆、ソバそれから稲作、畑作物であればいろんなものを作っておりますが、今年は畑作物に非常に影響しております。農作物は暑さのために非常に厳しい状況にある中で、熊、イノシシ、猿など、さらには鹿もおります。また、うちの農作業所にはいつもタヌキが入ってきます。タヌキに米の袋を全部破られて、もう散らかされて、何の恨みがあるのだと、いつもごもごもと自分で言っております。今年は熊による被害が非常に大きい。昨年あたりまでこれは山の中の出来事だと簡単に考えておりましたけれども、最近は市街地に出てテレビ等でも大変にぎわっております。ただ、人的被害があまりない。なぜかというと、うちのところは暗いときはあまり夜歩くなと言っておりますけれども――自分は夜、別のところを歩いておりますので、あまり被害はないという現状でありますが、本当に気をつけなければ、もし何かあったときに大変なことになるということであります。今後、ドングリとかそういう山の実、動物の食べ物がなくなる。今年がたまたまそうだということではなく、生き物も人が少なければ増えてくるし慣れてきます。そばに来ても逃げない。市では捕獲するためのおりを20基ほど用意しても空きがないというぐらい本当に大変な頭数を捕獲しておりますが、では、猟友会は頑張ってやっているのかということをたまに言うけれども、明石さんに怒られますが、県では猟友会のほうにも１頭幾らという補助金を出すということも検討しておるようです。市でもそこら辺にもっと力を入れて、被害が少なくなるような対策をしなければならない。慣れてくる動物に対しても、そういう対策を考えるようにしてもらいたいということであります。

それから４点目、**市役所駐車場整備について**であります。市役所の本庁舎自体は新しくなったけれども、市民から今の状況だと駐車場はいつできるのだ、そして、ちょっと見た感じが悪いということであります。これは、いろいろ入札の問題等もあると思いますけれども、やはり検討しながら――せっかく庁舎が立派になったが、駐車場がみすぼらしい状態では自慢もできないし非常に効率も悪い。やはり駐車場が早くきれいにならないと、市民から見ても立派な市役所だなと内外とも自慢ができないし、また自分方の利用にもちょっと不便であるということでありますので、早期に駐車場を整備する必要があります。そういうことで、今後の予定はどうなっているのか、そこら辺を聞きたい。

それから、５点目の**建設工事入札不調への対応について**です。災害復旧工事や建設工事は非常に遅れが多いと聞いておりますし、また、農地においてはまだ手をつけていないところがいっぱいある。確か30％ぐらいがまだ手をつけていない。しかも、不落札でなかなかやる業者がいないということを聞いております。これでは非常に農家も困るし、また道路もやはり早く直してもらわないと困る。災害復旧工事やそういう工事の遅れが非常に目立つ。やはりこれは何らかの手を打たないといつも不落札では困る。そういうことで、どうすればそれがよくなるかといろいろ考えていると思いますけれども、そこら辺の対策はどう考えておるか、これからどうしていくのかということを聞きたいということであります。

以上、簡単でありますがお答えをお願いいたします。**（拍手）**

〔15番　田村秀雄君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村秀雄議員の御質問にお答えいたします。まず、お答え申し上げる前に、100ＨＡＣＨＩではなくＨＡＣＨＩ100を高く評価していただきましてありがとうございます。交流人口をさらに増すことになったのと、やはり大館の子供と渋谷の子供が自分たちが次の100年を紡ぐ主役なのだという意識を持っていただいたことが一番うれしいと思っています。また、市長就任して以来８年半。その前に災害協定であったり大館のお米を渋谷の子供たちが学校給食で食べるという関係性をつくってくれたりはしていました。今年、私たちは同じ時期に選挙だったわけですけれども、この８年半の成果が秋田県と東急グループが秋田の活性化で包括的な協定を結んだという一つの結果として出すことができたのは、非常にうれしいと思います。この関係性はさらに深まっていきますが、実はこの渋谷や東急グループと得られた関係性で気づきがあります。渋谷の皆さん、東京の皆さんは大館の農産物をみんな欲しがるのです。東急グループは１億2,000万人いるこの逆くの字形の日本列島の、その中でも一番人口が多い坂東八国の、しかも金持ちが住んでいる渋谷、横浜を起点にしたグループです。そこの人たちが大館の物が欲しい。それに応えようとすると収量が圧倒的に足りないので、そこを何とかしなくてはいけない。ですので、私は農業はこれからどんどん伸び代がある、ただし今までと同じやり方では駄目だろうと思っています。国の政策はころころ変わる、私もよ

くそういうふうに聞かされていました。猫の目農政と言いますよね。何で猫の目農政なのか。これはやはり向こうで働いているときに気づいたのですけども、沖縄から北海道まで同じ気候ではないですよね。それを東京のど真ん中の霞が関で、机上論で書くからああいうふうなことになる。ですので、大きい項目の１点目の水田活用の直接支払交付金の厳格化というのはイメージで申し上げると、超大型圃場のところで――こっちで言うと、特定のことを言うと怒られますけども、大規模で超大型でもう見えなくなるぐらい大きなところで悪用する人たちがいたのです。悪用を防ごうということなのですが、中山間地域も同じように適用されるのではないかという誤解を生んでしまって、これでは駄目だってことになったのですが、そうではないということをまず共有したいと思います。そういう誤解がありますので、国が示した水田活用の直接支払交付金のルールを厳格に適用するというのは、せっかく水稲から畑作にかじを切って畑地化を行った農業者にとっては、田村議員御紹介のとおり所得の減少に直結します。田村議員のおっしゃるとおり、離農や耕作放棄地の増加が懸念されます。地域農業に大きな影響を与える改悪であると認識をしています。これも同じく国の事業なのですけども、市では畑地化促進事業を活用して、野菜、果樹などの高収益作物、あるいは麦、大豆などの畑作物の定着に取り組む農業者を支援してきましたし、これからも支援してまいります。特に、この世界的な感染症の流行、パンデミックの３年間に大館は自給自足に思いっ切りかじを切りました。それは、ロシアのウクライナへの武力侵略が示したとおり、エネルギーと食料は国産国消をきちんとつくっていく必要があると思います。そして、秋田の農業、長野の農業、熊本の農業、沖縄の農業と北海道の農業は違う。それぞれで国産国消を促せる総合的な流通させる仕組み、都市と農山村を共生させる農業の在り方をしっかりと見据えた上で大館は農業支援をしていきます。一方、水稲と畑作物をきちんと分けて交互にしていく、いわゆるブロックローテーションによって水田を維持し、ルールの厳格化の影響を受けない農業者の皆さんに対しては、国、県の補助事業を活用した農業機械の導入をさらに促進します。農作業の負担の軽減、そして効率化を支援していきます。先ほど、タヌキの事例がありましたが、そういうのも、撃退するような機械が発明されるといいなと思っています。多分、将来ドローンでそういうのをやるかもしれません。

大きい項目の２点目になります。本市だけでなく日本農業全体の課題として捉えていきたいと思っています。まず、就農されている方御自身の高齢化、後継者不足の問題、そして就農される方全体の数が減少している。そうした中、肥料や資材価格は高騰しています。農業所得の減少があります。こうした状況を踏まえ、国ではデジタル技術を農業に応用するスマート農業の実用化に注力しているのは、もう既に御高承のとおりであります。ただし、ここで私がもう一つ言いたいとすれば、肥料や資材価格の高騰の原因は何なのだということになります。なぜ比内地鶏の肥料をアメリカから持ってきているのだということです。自分たちで作れればいいのです。それのためにも大館は構築・連携をできるけれど、それをさせないような仕組みを農

林水産省は持っていました。私たちの主食用米を市場に出さないから比内地鶏に食べさせていいのではないかということに関しても駄目だったのです。でも、お米を細かく砕いて魚粉と混ぜれば比内地鶏に食べさせていいですよというところまで農水省から答えを引き出したのは、大館市議会なのです。前の議長をされた藤原美佐保さんなのです。私、そのとき秘書として一緒にお願いに行っていました。そのときに対応してきた食肉鶏卵課長が、後の農林水産省事務次官になる本川一善さん、副市長の本当の親友です。こういう御縁を私は大切にしたいと思っています。そうした中、デジタル技術を活用するということは生産性を高めるということになります。生産性を高めるということはコストを下げるということとアウトプットである収量を増やすという２つの方向性があります。そうした中でビッグデータを活用した圃場の遠隔管理。これは水土里ネットの地図情報が一番重要になってくると思います。ＧＰＳの自動操舵を活用したトラクター、ドローンを利用した作業の効率化、省力化、これは全部コストを下げる政策です。新規就農者であっても即戦力になることが期待されている技術で、こうした技術は積極的に応援をしていきたいと思っています。本市においても昨年度からスマート農業機械等への導入の支援を積極的に行っています。昨年度は12件、本年度は酷暑も響いたのかまだ７件なのですけれども、ドローンやＧＰＳ搭載トラクターの導入などに活用していただいているところであります。引き続き、本制度による支援を進めていきたいと考えています。また同時に、田村議員から1,000万円を超える農業機械があるのだということで、私もよく知っております。下町ロケットで勉強しました。この議論をするときに田村秀雄議員は本当にプロの就農家でありますので、田村議員のようなプロの就農家にはもっとプロになっていただきたいと思います。ただし、さっきの生産性、収量を高めるには経営という考え方が必要になってきます。法人成り、農業法人です。つまり、経営体の大規模化を図ったときに、こういった1,000万円を超える農業機械を買っても、それに足るだけの収量を上げさせるということが可能になります。例えば、私は先週の要望活動で斉藤滋宣能代市長と一緒でした。能代の白神ネギの市場は今幾らだと思いますか。20億円だそうです。１億円プレイヤーがたくさんいるそうです。もう20億円となると、九条ネギと深谷ネギのねぎサミットにも行っていましたが、もう能代は完全に市場の価格決定に影響力を与えるだけの場所になったのです。なので、能代市にはうちでいうと産業部にねぎ課があるのです。大切なことだと思います。こういったことをちゃんと考え、経営としても農業を捉えていく。農地の集積、経営面積の拡大は土地改良と連携しなければなりません。そして、さらなる作業の効率化を図り、コストを下げる。それを通じて私は絶対農業所得は向上する、経営も安定する、農業を成長産業にすることができる。そして、その先頭に立つ潜在的な力を秋田は持っていると私は思っています。国産国消、農林水産大国日本の先頭に立つのが我が秋田だと私は確信をしていますので、ぜひ御理解と御協力を賜りたいと思います。

大きい項目の３点目であります。熊、イノシシ、猿。いろいろと言い方はあると思いますが、あえてここでちょっと高邁というか、次元を高めて言うと、異常気象のせいだとはっきり言っ

ていいと思います。熊がこんなにも食べるものがなくて里山に下りてくる、これは確かにもう異常事態だと思います。また同時に、自然体系がつくってきた本質的な命のつながりの大切さをきちんと伝えていくということも、私は秋田でしていくべきだと思いますし、午前もお答え申し上げましたが、世界自然遺産であったり、世界文化遺産であったり、国立公園であったり、国定公園であったり、本当に世界中の人々を魅了してやまない、この先人先達が私たちに残してくれた豊かな自然の本質的な魅力を語ろうとしない限り、有害的なものだから殺せばいいとか保護しなければならないという両極端な議論ではなくて、ちゃんと哲学を持ってこの自然の営みと命のつながりというのを押さえていく必要があると考えています。先般申し上げましたが、先週行われた秋田県との政策協議では、後で共有したいと思いますが、ツキノワグマによる被害防止対策の強化に対して県のほうから提案があり、実施隊員に関しても処遇の改善に向け、活動費も日当制から箇所数制に変える、新たな解体処理に伴う日当の支給も予定。後はジビエとして流通することに関しても知事自身がリーダーシップを取ってやると言っていますので、県北に１か所造るとなればどこになるのか、そこもきちんと見極めていきたいと思います。後は実施隊員の高齢化が進んでいる捕獲活動を担う若い世代の育成と確保はとても重要なことだと思っています。明石議員、よろしくお願いします。あと、県の熊出没情報マップシステムの運用があります。それに加えて、大館市としては捕獲が最も効果的であると捉えておりまして、今申し上げました実施隊による捕獲活動を一層強化いたしました。特に、人身被害が発生している熊対策として、箱わなを10基追加、トータルで30基になりました。あとイノシシに対しては、くくりわなによる捕獲を継続したいと思っております。副議長、先般中山に出没したのはイノシシの家族ですか。びっくりしました。イノシシも同じようにくくりわなで捕獲するのですが、私が一番恐れているのは豚熱、豚コレラです。これがもし発生したら鳥インフルエンザの比ではないです。市長は多分不眠不休になると思います。これは横手市の高橋市長が教えてくれましたが、そこがこれから重要です。イノシシが中山に出てるということは、豚コレラが発生するおそれもある。そうすると、半径10キロメートル以内は焼却処分しなければならなくなる。これが一番怖いです。あと猿に関しましては、今は追い払いを基本としていますが、これもやはり必要に応じて箱わなで捕獲を進めていく必要があると認識をしています。まず、農作物被害を防止するためには効果的な電気柵設置への補助――この電気柵設置の補助は、石垣副議長が提案をしてくれて実現したものです。鳥獣被害対策実施隊の増員につながる新規狩猟免許取得にかかる補助も必要だと思います。これをさらに充実させていくほか、県と連携して広報等の注意喚起、ＦＭラジオおおだてやＳＮＳなどでの出没情報を県と共有して市民の皆さんに発信するなど、迅速に情報提供を行い、猟友会との関係性をさらによくしていきたいと考えております。官民を挙げて対策を実施するほか、先ほど田村議員から御紹介がありましたアーバンベアに関しては、今、知見が急速に集まりつつあります。先日の話でも北海道のヒグマのＯＳＯ18が何で肉食になったのだと。あれは、エゾシカを守ろうとする環境省の方針が歪

んだ形で、熊の肉食化を進めてしまった。アーバンベアもそこをちゃんとしないといけないと思います。これも石垣副議長から教えてもらったのですが、ソバや米を食べる熊。ドングリとかは今年不作で来年豊作だと言われています。ところが、もしそれが不作だったとしても、一度味を覚えた熊は必ず来ますので、そこをどうするのか。どういうふうにすみ分けるのかということをしっかりしないといけないと思います。究極的にやはり人間が怖い存在であるということを忘れてしまった熊に関して、人と熊とのあるべき関係性をしっかりと私たちが認識して、政策として進めていくことに尽きると考えております。

大きい項目の４点目です。田村議員御紹介のとおり本庁舎建設事業外構整備工事はこれまで３回入札を実施しましたが、御存じのとおり不調により受注者の決定には至っておりません。当初予定しておりました来年12月の完成は遅れます。現在、単価を再設定しています。低いのです。やはり今民間のほうがはるかに上がっていますので、工期等の条件を緩和します。見直した上で、４回目の入札に向けて準備を現在進めているところであります。入札は来年１月下旬を予定しています。順調に契約の相手方が決定した場合は、３月定例会に締結に係る議案を提出したいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようお願い申し上げます。

大きい項目の５点目であります。建設工事の入札については、特に災害復旧工事をはじめとする土木工事の入札において、応札者がなく不調となった案件が多数あります。そのほかにも公共下水道工事、本庁舎建設事業外構整備工事など大型案件でも不調となるケースが発生しています。応札者がいない要因は、事業者が県の災害復旧工事を既に受注している、ほかの工事に手が回らない、建設業界そのものの人手不足、人材不足等が挙げられます。市では、入札参加者の地域要件を市内だけでなく県内に広げるなど、様々な対策を講じてきたところです。また、入札に参加の意向を示しながらも応札を辞退した事業者に対してヒアリングし、辞退された理由を聞き取りするなど、都度、その不調の原因を分析し対応してきたところです。しかしながら、農業施設の災害復旧工事などの土木工事においては、いまだ受注者の決定に至らない案件もあります。随意契約も視野に入れ、早期に着工していただけるよう繰り返し発注を行っているところであります。田村議員、こういう質問を頂いたからこそ、今建設部で包括的民間委託という新しい公共事業の形を試行錯誤しながらトライしているということをぜひ御理解していただきたいと思っています。そして、私は申し上げましたが、例えば、建設部がやる公共下水道工事、総務部がやる本庁舎建設工事といろいろ種類があります。そして、農業施設の災害復旧は農林水産省です。それぞれの規定の予算を消化する形でつくったものが破壊されるから、その予算で対応するとなると煩雑な事務作業がこちらの事務方に出ます。それを１回に集約して、しかも単年度ではなくて複数年でというのを今建設部でやっています。効果は劇的です。そうすると、こういう災害が起こったときに、事業者はＪＶと分かっていますが、資金調達の知恵をどれぐらい自治体側で用意できるかということになります。豪雨災害であれば最終的には内閣府の激甚担当の予算であります。農林水産省の予算を待たなくていい。先にこのぐ

らいの予算が取れそうだということが分かるだけでＪＶを組んでいる方々はほっとする。大館市長として私が今やろうとしているのは、旧来の昭和や平成の公共事業の発注の仕方だとマンパワーが減っていく中で同じやり方でやったら進まなくなるから、新しい手法に挑戦をしています。ですので、ぜひこの質問を頂いたことを機に、なぜ今大館が包括的民間委託という新しい公共事業の形を全国でも先駆けて挑戦をしているのかということを御理解いただけると非常にありがたく存じます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○15番（田村秀雄君）　議長、15番。

○議長（武田　晋君）　15番。

○15番（田村秀雄君）　非常に丁寧な御説明ありがとうございます。何点か再質問いたしたいと思います。まず、２番目のスマート農業推進についてですが、後継者が少なくなっている。私も含めて高齢者になってきているので、専業農家としてこれから何年できるかなという心配があります。そういうことで、ますますこのスマート農業というのは必要だ。昨日、おとといにテレビに入っておりましたけれども、これからの若い方々がやる上で不可欠な要素でもあります。しかしながら、新規就農者であっても、また、頑張っている農家であっても、スマート農業の機材はいいというのは分かるのだけれども、先ほど言ったように高額な機械でありまして、それにアタックする、これをクリアするというのは大変に至難の技であります。だけれども、それをやっていかないと、これ以上伸ばすことはなかなかできない。優れたいい機械ができてきたのだけれども金額が大きいということで、農家単独では非常に負担が大きいので厳しい。これは市独自だけでは厳しい。やはり国、県を合わせながら、できるだけ有利な補助事業を持ってきながら農家の負担を少なくなるようなことをすれば、若い人方もどんどん増えてくるかもしれないということですので、何とかそこら辺をよろしくお願いしたい。

それから、熊、イノシシ、そこら辺の動物の出没は、市長も言うように、今年は特に天候が影響しているということでありましたが、やはり、動物は一旦里に下りてくるともう慣れてしまって、特に私たちのいるところは人が少ない、動物は多いとますます逆転してきているわけです。そういうことからすれば、やはり慣れが生じてくるので、今年はドングリがいいからといって来ないとも限らない。やはり味をしめていると市長も言ったけれども、そういうことがこれから多発してくるのではないかと思います。おりを10基増やしてくれたのですが、そればかりではなく猟友会の意見を聞きながら対策をして、幸い人的被害はなかったのでよかったけれども、鷹巣や秋田市のように本当に子供にまで及ぶようなことがあれば大変だと思いますので、そこら辺もよろしくお願いしたい。

それから工事の不落札ですけれども、今年で２年、来年になれば３年と、農家であれば３年もほったらかしになるので、もう要らない、いいやというふうになる可能性もあります。先ほどの落札の方法を変えてやりやすい、取り組みやすい、しかも仕組みを変えて何人かと一緒に

合同でやるとか、金額の是正をしながらやっていくということでありましたので、どうかその方向で進めてもらいたい。これが終われるようにしてもらいたいということであります。市長からその点で何かあれば。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの田村秀雄議員の再質問にお答えいたします。まず、大きい項目の２点目、スマート農業に推進に関しての田村議員の再質問を聞いて、工場の経営と全く同じだなと思いました。農業も全く同じだと思います。使う機械をどうするのか。その機械に投資した分の回収をどうするのか。これは工場の経営と全く同じだと思います。そうした意味においても、やはり規模の大規模化、農業法人の形をどんどん積極的に促していきたいと思っています。あともう一つ、工場の経営と似ていると感じたということと合わせて、実は大館だから紡げるスマート農業の物語というのがあります。ジオグラフィック、要は、座標軸をきちんと見るということで衛星がすごく大切になります。人工衛星の打ち上げで、三菱重工業田代試験場のロケットエンジン噴射試験場は物すごく貢献しているのです。あれがないと飛べません。国策の人工衛星は、まさに田代産と言ってもいいのです。そういう物語をつくることを通じて、スマート農業に関わっていく壮大な背景を共有できれば、それに意気を感じてやってみたいという人も増えてきます。そういうことを発信していきたいと思っています。あと、先ほど申し上げましたが、もし今度要望活動等を一緒にするときに――渋谷の青山学院大学の前に国際連合大学があるのですけれど、土日に青山マルシェという市場ができていまして、そこでは一番人気があるのが鎌倉野菜なのです。鎌倉というのがブランドになっているのです。でも、私は絶対に大館のほうがおいしいと思っています。大館の物を待っている人たちがたくさんいるので、大館の農業あるいは農産物のファンが多いのだということをもっと発信していきたい。農業に魅力を感じる若い人がたくさん出てきましたので、そういう面でもどんどん後押しをしたいと考えています。

熊とイノシシと猿。まず気象が変わっていく中で、私たちの向き合い方が変わってきたということ。あとは、都会化、都市化を私は全面的に否定しませんが、そうではなくて自然に私たちが関わっていくという暮らしのよさ、すばらしさというのを根底に据えないといけないなと思います。食べるときにいただきますという「いただく」というのは、命を頂くという意味だと私は聞きました。そういうふうなものがないと、この先人先達から受け継いだ豊かな自然の中で、熊が多いから秋田は駄目だ、イノシシが多いから駄目だけでは違うと私は思うのです。そこをしっかりと哲学を持って進めていきたいとに考えています。

あと工事入札等に関しては、短期、中期、長期で見ると、短期的には田村議員御紹介のとおり、みっともないというのもあります。まずは、きちんと入札してもらう対応を私たち行政の側がするということ。中期的には、工事を請け負う業界の側もそれを発注する行政の側も、仕

組みをより効率的にしていくことが重要だと思っています。長期的には、工事そのものは複数年度の中で対応するようにして、資金調達のプランをちゃんと行政として用意しておくこと。これは、防災・減災、国土強靭化枠とするべきだと私は思っています。そういう枠の中で、予算をちゃんと持ってきて、有事になっても発注する。その工事というのは契約の段階で５年とか７年の中で内包されているものにプラスするので、これでやってくれというほうが一番スムーズに行くだろうと考えておるところであります。ここも、やる気のある地方自治体の、知恵のある地方自治体の挑戦する力が試されている分野だと思っております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○15番（田村秀雄君）　議長、15番。

○議長（武田　晋君）　15番。

○15番（田村秀雄君）　今言ったスマート農業の推進については、若い人方も、新規就農者もこれからますます増えてくるし、また都会からも農業をやりたいという人も出てくるかもしれない。現に各地でそれが増えてきております。大館もそういうのが発展して、そして若い人に魅力ある大館を残していけるようになってもらえればと思います。

それから工事対策ですけれども、業者の方々も資金繰りというか、資材が非常に高騰している。１年増すごとに資材が高くなっていくとすれば、それだけその単価が非常に上がるということで、あまり幅のない工事であれば、これはとても手をかけられないと入札できないことになりますので、先ほど言った一体型になったその入札をどんどん進めて、資金調達もできるような仕組みをぜひ進めていってもらいたいと思います。市長、一言いいですか。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　田村秀雄議員の再々質問のうちの建設工事についてお話をします。実は建設業界全体が資材価格の高騰にあえいでいるのかというとそうではないのです。きちんと経営しているところは上がるのが分かっているからパンデミックの３年間に資材を買いだめしているのです。これはひとえに経営の問題です。どのぐらいの感覚で自社の経営を見ているのかで違います。５年、10年で経営をしている経営者というのは何回も不況と好況を繰り返しているので大体読んでいるのです。そういうところは今どういう動きをしているか。他社を買収しています。買収していなくても、資本協力という形で関係性をどんどん増やしていっている。建設業界は多分そういう業界になってくると思います。ですので、そういう視点を私たち行政はきちんと持っています。それは、まちづくりのプロ集団をつくると市長が言った意味はそういうことだということを全部共有しています。ぜひそういう視点を持って、今、建設業界と金融業界が合わさって、新しいまちづくりの資産管理業界に変わろうとしているのだという、時代的な認識を持って臨んでいきたいと考えております。

○議長（武田　晋君）　次に、石垣博隆君の一般質問を許します。

〔18番　石垣博隆君　登壇〕（拍手）

○18番（石垣博隆君）　真政会の石垣博隆です。質問に入る前に一言。この３週間、議長代理として、秋田県との合同のタイ王国へのトップセールスから始まり、県北部議会や北部首長会合同での日沿道を中心とした様々な期成同盟会で行った要望活動、さらに大分県宇佐市で開かれた第11回全国道の駅シンポジウムｉｎ宇佐への参加など、多くの出張がありました。内容を一つ一つ説明したいところでありますが、時間の関係上簡単にまとめますと、福原市長の政治に対する熱い思いと真っすぐな姿勢を改めて御教授いただいたことに感謝と敬意を、そして何より北林副市長をはじめとする各部課長の皆様の市役所職員としてのレベルの高さをかいま見ることができたことは、一議員として学びと気づきが多く、大変よい経験になりました。この場をお借りしまして福原市長、当局の皆様には感謝と敬意を申し上げます。ありがとうございました。特に１か月以上家を留守にし、御指導いただいた乳井事務局長には頭が下がります。毎回、喫煙所を探していただきありがとうございました。まさに政治力がなし得ること。そのためにできる仕掛けや仕組み。１つの大きな力ではなし得ないことでも、組織をもってこそなし得ることができる日本の政治、行政の仕組みを知れたような気がします。政とはと、改めて深く考えさせられました。とにかく本当に刺激いっぱいの３週間でした。この経験を生かし、さらに成長し、一市議会議員としてしっかり使命と責任を果たすことを改めてお誓い申し上げます。ありがとうございました。長くなりましたが、通告に従い質問に入ります。

１、国の政策で推進している農産物の**輸出強化について**であります。国の農林水産物及び食品の輸出の促進に関する基本方針によると、海外における需要は2030年には1,360兆円にまで拡大が見込まれております。我が国の農林水産業が持続的に発展するためには農林水産物等の輸出拡大を図る必要があることから、政府は令和12年までに輸出額５兆円を目標に掲げ、世界の食市場を獲得していくことが不可欠であるとしております。さらに、ポストコロナにより国内の外食市場の動向は回復基調ではあるものの、少子高齢化に伴う人口減少により食の市場規模は減少傾向にあることから、拡大する海外市場に目を向け、本市の基幹作物でもある主食用米の輸出拡大について官民一体となって取組を強化するべきではないでしょうか。先日、市長の御活躍によりつながりを持つことができましたカメイ株式会社から、主食用米の輸出の取組を拡大したいとの情報を受け、本市農政課を含めてお話を聞くことができました。カメイ株式会社食料部開発課東京事務所課長の巻野様、グループ会社のＫＣセントラル貿易会社代表取締役社長の磯田様と情報交換することができ、本市の問題点やカメイ株式会社が求めることも見えてきました。まず、生産者側の問題点としては、収穫した主食用米をカメイ株式会社に届けるまでの間、仮置きする保管倉庫がないということです。整備するにも一農業者では対応しきれないということ。さらに、出荷量が多くなっていくと穀物検査にも対応できなくなっていくのではと考えます。次に、カメイ株式会社としては、行く行くは精米――白米にすることです

が、パッケージングまで大館でやってもらえたら、大館産のプライベートブランドとして輸出を確立することも夢ではないというところまで言っていただけました。さらに想像を膨らませると、穀物検査所と保管倉庫、精米所を持つことで、大規模経営はもちろん、小中規模農家でも多くの販売戦略が可能となります。先ほど市長がおっしゃっていた東急グループへの挑戦もできるかもしれません。今、輸出拡大は国策でもあり、市においても海外という新市場を開拓していくことに積極的に取り組むべき必要性があると認識し、農業者単体への支援ではなく、本市の主食用米の必然的な取組として課題解消に向け可及的かつ速やかに取り組むべきと考えますが、市長のお考えはいかがでしょうか。さらに付け加えると、現在、インランドデポへの取組が進んでおりますが、その実現には工業製品のみならず農産物の輸出も大きな鍵となるはずです。プライベートブランド米が40フィートコンテナに積んで輸出される日が目に浮かびます。今年の米事情としては、米価が上がったものの資材高騰や高温障害による不作や品質の低下で大変苦しい状況が続いておりますが、こういうときだからこそ、先を見据えた取組が必要と考えます。議員として、さらに認定農業者を代表して、一次産業から生まれる産業構造の再生のきっかけになると確信しておりますので、どうか市長の前向きなお考えをお聞かせください。

２、**あきたこまちＲについて**であります。県があきたこまちＲを発表した直後から様々な誤解を招くような情報が飛び交っており、あえてこの質問を取り上げることにいたしました。改めて、あきたこまちＲは、カドミウムをほぼ吸収しない以外は現行のあきたこまちとほぼ変わらない品種だということであります。多くの鉱山を有した大館市をはじめとする秋田県における水稲栽培は、出穂期の前後６週間の湛水管理、生産者の努力により人体に有害なカドミウムの吸収を抑制しております。ちなみに、カドミウムの数値が規制以上のお米は主食用としては出回っておりません。ということは、今年のような高温障害でカドミウムの数値が高くなったお米は、廃棄かそれ以外の用途として流通されるということになります。人体に有害なカドミウムの吸収を抑制している反面、湛水管理の実施は土中のガスの発生が促進され環境にも影響を与えているほか、人体に有害なヒ素が水稲に吸収されやすくなってしまいます。カドミウム及びヒ素の含有における海外基準値は日本より厳しいことから、今後、輸出拡大を目指す国としては海外レベルまで基準値を厳格化することが想定されます。また皮肉なことに、カドミウムとヒ素は圃場の水管理において両立できない関係性であることから、カドミウムの吸収抑制はヒ素の吸収促進となってしまうこともあります。農家による栽培技術を駆使した有害物質の吸収抑制は、今後、規制が強化されることを踏まえると、もはや限界に近い状態となっております。このようなことから、このたびの秋田県におけるあきたこまちＲへの全面切替えは、食の安全の観点からも大変有効で歓迎されるものであることは明白です。あきたこまちＲの育種方法は、コシヒカリの種子に一度だけ放射線を照射して突然変異を誘発させた後、あきたこまちと６回以上の戻し交配させた品種であり、自然界でも通常に起こり得る現象であります。

様々な品目で突然変異による枝変わりなどで新しい品種が生まれるということは日常的にあります。にも関わらず、誤解などにより、まるで放射能に汚染された品種と勘違いされているなど風評被害にさらされております。つきましては、あきたこまちＲの有効性は、農業者のみならず一番大事な食の安全の観点からも必要であることの認識を持ち、県と歩調を合わせて風評被害払拭と栽培普及に努めるべきではないかと考えますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

３、急激な人口減少が進む大館市において、産業界での**人材確保**は喫緊の課題であることから、外国人等の人材受入れについて積極的な支援を行ってみてはどうかであります。令和５年９月の大館市の有効求人倍率は1.52倍となっており、令和３年４月から右肩上がりで上昇を続け、ピークの令和４年12月には1.91倍に達するなど、人材不足が顕著に現れている現状があります。大館市の産業は農業分野も含めて中小零細企業が大半を占めており、特に一次、二次産業においては人口減少の影響を受けて人材確保が難しく、その影響で仕事が受注できないなど、地域経済にとってマイナス要因となっております。また、このような人材不足の状況が今後も続く場合、仕事はあるが人材不足で廃業を余儀なくされるなどの事態が想定され、誘致企業を含めた産業界全体の衰退を招き、さらなる人口減少の引き金となる負のスパイラルに陥ることが容易に想像できるものであります。この状況に対する、市外のみならず県外、国外の人材の確保は喫緊の課題であり、全国的な人口減少の状況を踏まえると、もはや海外からの人材確保が必須ではないかと考える次第であります。市長がおっしゃる「仕事は人」は大変意義のあるものでございますが、今現在、これからの大館市の人材不足の状況は市長の産業発展施策の足かせとなっていくと考えております。つきましては、中小の一企業や農業者だけでは海外の人材の受け入れる方法、情報、ノウハウ、入口も何も分からない状況であることから、大館市の施策の一環として海外の人材確保について取り組んではいかがでしょうか。また、海外の人材の確保施策は、単に補助金の交付ではなく、その仕組みづくりの実現に向けて行政として支援や積極的な施策を実施してはどうかと考えているところです。市長のお考えをお聞かせください。

４、**ふるさと納税について**であります。大館市のふるさと納税金額は、令和４年度寄附額が９億7,823万円に上り、６年連続で過去最多を更新しております。さらに令和５年度は目標に掲げている10億円の達成が見込める状況にあることから、大変すばらしく、敬服いたします。しかしながら、単なる寄附額の比較だけでは判断できないと思いますが、某市では令和２年度の実績４億9,844万円が令和４年度には14億3,337万円となる驚異の伸び率が示されました。これは、ふるさと納税事業の事業者変更が大きな要因と思われますが、それ以上に魅力的な返礼品の品揃えが豊富であることも要因として考えられます。大館市には他市町村に劣らないすばらしい返礼品と、さらなる資源があると思います。各個人や事業者単位では、人員や施設設備の不足などの影響を受け、返礼品として提供できる数が限られているようにも感じられます。例を挙げますと、農畜産物の中では、主食用米を年間を通してふるさと納税の返礼品とした場

合、精米機や保管する低温倉庫が必要となります。一般農家は収穫後の一斉出荷が基本であり、農業者として新規参入は難しいと考えられます。そこで、新たな参入事業者の確保のために、ふるさと納税基金の使用使途に産業振興や魅力ある商品開発を加えて、返礼品の確保に努めることはできないでしょうか。ここでは返礼品の確保と言いましたが、返礼品は魅力のある大館市の特産物であることから、ふるさと納税の返礼品とするだけではなく、一般商品として特産品の販売効果も得られるものと考えます。このように10億円の壁を越えるためには、返礼品の確保とふるさと納税の仕組みの見直しも必要と考えます。真政会では今年度、ふるさと納税について何度か勉強会を行ってきました。そこで、令和４年度の寄附使途の実績として７項目あり、その中で、寄附使途として特に指定しないが約44％というお話を聞きましたが、この特に指定しないの44％の部分を産業振興への投資に使ってみてはどうでしょうか。市としては確かに自由に使えるありがたい基金ではありますが、これを産業投資とすることで次の返礼品を作り、安定供給することができれば、さらなる納税アップができるはずです。持続可能な産業とふるさと納税の仕組みがつくれるのではないでしょうか。また、商工会議所やカメイ株式会社に委託している中間業者と事業者会、そして大館市の三者でつくる推進協議会の御努力でここまでの実績をつくってきたことには敬服いたしますが、いよいよ10億円の壁を越えるためには、もう数段ギアを上げられる仕組みが必要であると考えます。地域商社等へ方向を変える取組を、市長はお考えになっているかをお聞かせください。

以上４点についての質問でありますが、どうか前向きな答弁をよろしくお願い申し上げ、ここからの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。**（拍手）**

〔18番　石垣博隆君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの石垣博隆議員の御質問にお答えします。まずその前に、ここ３週間の動きを共有してきた中でいろいろと学ばれ、そして気づかれたことに市長として感謝と敬意を表したいと思います。組織として動くこと。実はここが政の肝要だと思います。ワンマンプレイは通用しません。政治の世界はそんなに甘くないです。ここが何よりも重要なことだと思います。そして、議会と当局は対立関係ではなくて、共に議論をしていくことを通じて成長し合う関係が私は一番いいと思います。本音で自分の言ってることをぶつけ合えるか、その信頼関係が一番重要だと思います。特に産業政策においては、畠山部長が今、頑張ってます。優勝トロフィーで浴びるだけ酒を飲んでいた産業部長の雄姿を絶対に忘れないでほしいと思います。

それではまず大きい項目の１点目であります。石垣議員御紹介のとおり、政府においては令和２年11月、農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略を閣議決定し、打ち出しています。この中で2030年までに輸出額約５兆円を達成するという目標を掲げています。これは何を意味しているか。農林水産業は、これまでは国内市場に依存してきたが、これからは成長し続ける海外市

場で稼ぐのだ、これが、これからの農林水産業だというのがこの国の方針であります。2030年までに約５兆円、今はまだ道半ば、それでも約１兆5,000億円まで来ました。輸出拡大に必要な設備投資等への支援、輸出手続の円滑化などの取組も強化されています。大切なのは、令和２年の段階では１兆円にいっていなかった9,860億円から、令和４年には１兆4,148億円、伸び率が143.5％、これはとてつもない伸び率だと思います。一方、本市におきましては、これまでも武田議長、石垣副議長に御同行いただきながら、フランス、ベルギー、タイ王国、そして台湾でのトップセールスを行ってきました。そのことを通じて海外というものを感じていただけたかと思います。海外マーケットにおける日本食文化への関心の高さを肌で感じ、大館産農産物のブランド化に通じては海外展開がこれから絶対に必要になると確信しております。ふるさと納税で業務提携しているカメイ株式会社から米輸出事業の提案があって、非常に私はうれしく思います。石垣議員、カメイとふるさと納税で業務提携するときの、あの地元の批判の声は絶対に忘れないでください。江戸時代末期のときもそうです。国を開くと言うと、必ず反対勢力が出てきます。でもその後、国のかじ取りをしっかりと握ったのはどういう人たちだったのか。それが明治維新につながって、今の日本の姿があります。今、大館は大きく世界へこの町を開こうとしています。ぜひ今後とも積極的に、一緒に外に行きたいと考えております。そしてもう一つ、せっかくですので、そのカメイ株式会社は多分、グループ事業連結で5,000億円ぐらいいくと思います。東北を代表する一大商社です。恐らくトヨタであったり、コカ・コーラ関連であったり、代理店のものはまず一度カメイが受けて、そこから東北６県にいって、代理店ビジネスの仕切りをしていますが、これがなぜカメイなのか。歴史まちづくりで交流があります仙台市の隣に多賀城市というのがあります。きれいな丘があって、そこに中世、柵があったのです。柵というのは今で言う城で、そこが陸奥国の支配をしていました。朱印船じゃないのですが、その陸奥国の政府の正式な御朱印状を頂いて、塩釜の港を使って交易をしていたのが亀井家です。塩釜市とは災害協定を結んでいるので、近く行けると思います。塩釜市役所の裏に陸奥国一宮鹽竈神社があり、陸奥国一宮ということは、皇族とつながっている神社なのです。そこに亀井邸というのがあって、つまりカメイと関わるということは東北全体の物流の歴史を学ぶ好機でもあります。カメイの東北における一番の稼ぎ頭は、人口が100万人を超えている仙台圏です。そこにも大館の農産物を売り込むチャンスをつくるために、ただ単にふるさと納税だけでなくて、当時は渋谷や東急は見ていたけれども、仙台という東北で一番の市場を押えられるところと組もうとしたのです。カメイはアメリカ西海岸にも拠点がある。これが今、石垣議員に御紹介いただいた輸出の要になってくる。アメリカ西海岸とは必ず近いうちにつながります。秋田犬との御縁で一緒に盛り上がりたいというプレイヤーが出てきます。アメリカ版サザエさんと言われているシンプソンズの制作のクルーの中に日本人スタッフがいて、お忍びで秋田犬のふるさとに来るらしいのです。そうなってくると、フランダースの犬のヨーロッパだけでなくアメリカともそういうつながりが出てくる。そういう御縁の中で、この輸出

戦略というのをしっかりと進めていきたいと思います。しかしながら、新市場開拓に関心を持ってくれる方は非常に多いのですけれども、インランドデポではありませんが大規模な保管倉庫が必要になる。それから、検査体制をクリアするには相当の専門職が必要です。そういうサポートを市のほうでできるのかという課題があります。市としては、国、県、あるいはＪＡ、その他の関係団体と連携しながら、こういう対応をきちんとサポートできるようにしたいと思います。そしてハードを造る際には、国や県の補助金を積極的に活用した施設整備などにも取り組んでいきたいと考えておりますので、どうか御理解いただきますようよろしくお願い申し上げたいと思います。

大きい項目の２点目です。実はこれも、先ほどの田村秀雄議員の質問のときに紹介させていただきましたが、先週行われた県との政策協議で、あきたこまちＲへの切替えを積極的に宣伝していきましょうという約束をしてきたところです。ここがポイントです。背景は全部、石垣議員が紹介してくれました。食品衛生法という法律が日本にあります。日本はこの食品衛生法により、米のカドミウム濃度の上限値が0.4ｐｐｍ、海外ではより厳しい基準が設定されています。例えばカドミウムは日本が0.4ｐｐｍなのですが、東南アジア、香港、シンガポールは0.2ｐｐｍで半分。ＥＵは0.15ｐｐｍとさらに低い。もう一つ、トレードオフの関係にあるヒ素。日本は設定がありません。そして、香港、シンガポール、あるいはコーデックス委員会、ＥＵは0.35ｐｐｍ。これをしっかりとクリアするために、今回のあきたこまちＲ。はっきり言いますが、あきたこまちレボリューション、革新を意味するレボリューションをしていくと。つまり、先ほど申し上げた国内市場に依存するのではなく、海外市場を見据えた展開だということをきちんと押さえた上で、県と連携して進めていきたいと思っています。そして、せっかくこういうすてきな質問を聞いたので、石垣議員と共有したいのですが、海外ではこういう基準が厳しいのです。じゃあ、日本が緩いのはなぜか。それは自然が豊かで水がおいしいからです。海外の場合は、特定の宗教の名前を挙げたくないのですけれども、産業革命をする上で９割近くの森を切って植林もせずにいる国においては、おのずと地下水は汚染されています。しかも畑作・牧畜ですので、お米のような作り方ではなく、直接肥料をまきます。その後、何のケアもしません。そうすると土壌の汚染が進みますので、おのずと400メートル、500メートル、深くボーリングし、取ったミネラルウォーターをどこよりも早く飲んだのがヨーロッパの人たちです。その人たちは産業革命のとき、ロンドンでは自分たちがした糞尿を２階から出したのです。ブリュッセルはそうでなかったが、アントワープには何となくそういう残りがありました。ですので、考え方が違うだけです。けれども、海外に目を向けるということは、向こうのやり方にもきちんと適用していくということです。そのためには、あきたこまちＲは絶対に必要だと考えています。県と連携して、さらに宣伝していきたいと考えております。

大きい項目の３点目であります。これは石垣議員の言うとおり、積極的な支援を行ってまいります。石垣副議長におかれましては、タイ王国に実際に行ってみて、どうお考えになりまし

たか。恐らくですね、日本は失われた30年なのです。向こうは毎年４％、時によっては７％成長しているのです。年収の感覚でいくと、市議会議員や市長よりもはるかに上の人たちが国民の大層を占めています。そういうふうに東南アジアがなっている中で、彼らのほうがよほど裕福だから、うちの工場で働いてくれということだけでは来ません。そうすると、彼らに対して大館を働く場所として認めていただくためには、大館の地域社会の一員になっていただくためのメリット、そして、こちらで働いていただく折にも家族と一緒に住んでいただけるというところまでイメージしてもらう必要があるというのが、私が海外に行って得た知見であります。これに応えないと選ばれる大館にはならないと感じています。こういうことをしっかりと踏まえた上で、日本において外国人の人材を受け入れる場合、２つの仕組みがあります。一つは開発途上地域への貢献を目的とする仕組みとしての技能実習制度、そしてもう一つが人材確保が困難な業種、例えば今、吉原管理者がおられますが、お医者さんですとか、そういう専門性を有する人材を受け入れる特定技能制度であります。本市における外国人材の受入れ状況については、10月末ですけれども、在留外国人の方が424人。２つ制度がありますと言いましたが、うち技能実習での在留者は半分の207人、特定技能の方の在留者は21人となっています。技能実習制度の受入れ方法には企業が単独で行う企業単独型と、商工団体等が管理団体となって受入れを行う団体管理型があります。全国的には多くの企業が団体管理型を利用しています。これは先ほどの、来てもきちんと身元も保証するし、その後の家族の暮らしもきちんと保証しますということを言えるからです。市内の管理団体については、現在２つの組織がありますが、いずれも業種が縫製業になっています。ほかの業種の事業者、例えば農業の受入れを希望する場合には、現在、県内では秋田市にあります国際人材開発協同組合にお願いをするという状況であります。こうした中、大館商工会議所が立ち上がってくださいまして、管理団体の設立について現在、検討を進めております。今年の１月に団体設立に向けた支援の要請、大館市に協力してくださいという要請がありました。市としても、農業を含め様々な業種から人材が求められている状況に鑑み、その取組を積極的に支援していきたいと考えています。また一方、異なる文化、異なる宗教を信仰する方々が入ってきても、大館市は秋田県で唯一、全国で15か所しか認定されてない先導的共生社会ホストタウンであります。お互いの違いを尊重し合える社会の構築を進めているほか、日本で働きたい、大館で働きたい、まさしく大館を選んでいただける、そのための施策として、外国人実習生フィールドワーク事業を現在行っております。これは、市内で働く外国の方を対象に大館の観光資源に触れていただくこと、あるいは地域の住民の皆さんとの交流を通じて大館への愛着、大館愛を育むことを目的とした大館市独自の施策であります。今年は９月30日、３社13人の技能実習生に果樹の収穫体験などを楽しんでいただきました。なお、技能実習制度あるいは特定技能制度については、管理や支援体制の在り方についてまだまだ課題がありますので、現在、国において抜本的な見直しが進められているところです。市としましては、県内市町村などで組織する秋田県外国人材の受入れ・共生に係る連

絡協議会というのがありますが、この協議会と連携しながら情報収集を進め、同時に、今後の方向性をできるだけ早く打ち出していきたいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

大きい項目の４点目です。大館市はふるさと納税制度設立当初から、県内でもいち早く寄附獲得に向けた取組を進めてきたところであります。御紹介のとおり、令和４年度は９億7,800万円を超える御寄附を頂きました。本当にありがたいことであります。今年度は夢の10億円達成に向けて、ふるさと納税サイトの追加、旅先納税にも取り組んでいます。今年10月、制度が改正されました。その背景を後で申し上げますが、返礼品の調達費用にかかる基準が見直されたことから、９月には全国的に駆け込みでの寄附がありました。本市においても９月の１か月で２億円を超える寄附の申込みを頂きました。順調に寄附額を伸ばしています。寄附拡大により、返礼品事業者にとっても新たな顧客獲得、販路開拓にもつながりました。さらなる地域経済への波及効果も、今後さらに期待できると感じています。一方、本市の農産品返礼品が持つポテンシャルの高さから申し上げると、寄附額10億円達成は一つの通過点と私は考えています。石垣議員御指摘のとおり、返礼品の供給量の確保と言えば聞こえはいいのですが、別の言い方をあえてしますと、売り切れないことが課題です。これが最大限必要です。そして、石垣議員御提案のとおり、寄附者から頂いた寄附を活用して今ある返礼品を磨き上げるだけではなく、私は投資をして新しい組織をつくるべきだと考えています。ふるさと納税というのは、言ってみれば大館をネット空間を通じて全国に発信をする関係性です。これまでの既存のビジネスはそれを想定したビジネスではないです。現物を買ってもらう。供給する。生産も流通も、もう出来上がっています。そうではなくて、ネットで直接関わる中で、新しい仕組みをつくるために、ふるさと納税を使って投資する必要があると考えています。防災・減災・国土強靭化で私は北東北の陸援隊を目指すという方向性を打ち出し、消防はそれにきちんと応えてくれました。陸援隊の提唱者は坂本龍馬の盟友、中岡慎太郎です。今こそ私は、このふるさと納税に関しては、地域商社という形で新しい組織をつくります、それはまさに令和の海援隊、坂本龍馬の出番です。広く海外に視野を持って、広く海外と人脈を持った新しい組織をつくることを通じて、最終的には50億円、70億円を目指していきたいと考えております。あともう一つ、先般の見直し議論は私たちは絶対に議会と共有しなければなりませんが、間違いなく、寄附者が多い都会と地方自治体との戦いになります。この戦いに勝たないと、私たちは絶対に負けてしまうことになります。新しい関係性をつくったこのふるさと納税の仕組みを私は高く評価しています。一方、総務省のそれを潰そうとする省庁もやはりあります。そうした中において、きちんと戦って、その果実を市民の暮らしに還元するためにも北海道の先進地で見てきたと思いますが、この制度をきちんと残す戦いが、これから始まります。そのためには議会と当局が一緒になって、しかるべき動きを、まずは行政の東北の拠点仙台、ひいては行政と政治の拠点である永田町と霞が関、そこで両輪となって進めていく必要があると感じております。ぜひ、この面にお

いても御理解と御協力をお願い申し上げたいと思います。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○18番（石垣博隆君）　議長、18番。

○議長（武田　晋君）　18番。

○18番（石垣博隆君）　再質問というわけではありませんが、大変お腹いっぱいになりました。答弁ありがとうございます。いずれにせよ、農業に関して話しますと、スマート農業がどんどん進んでいくところには安定した労働力というのが絶対でありますので、その辺も含めて今後もしっかり……市長がいるかいないか分かりませんが、次の新しい仕組みも３月にまた提案したいと思っていますので、そのときはよろしくお願い申し上げます。終わります。

○議長（武田　晋君）　この際、議事の都合により10分間休憩いたします。

午後３時３分　　休　　憩

午後３時13分　　再　　開

○議長（武田　晋君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

相馬ユミ子君の一般質問を許します。

〔24番　相馬ユミ子君　登壇〕（拍手）

○24番（相馬ユミ子君）　市民の風の相馬ユミ子でございます。午後の登壇ということですけれども、皆さんも眠くなっているのではないかと思いますので、子守唄のつもりで聞いていただければと思います。福原市長におかれましては、３月いっぱいでお辞めになるということで、……（何事か呼ぶ者あり）まだ早いですけれども、一応、礼儀として御挨拶させていただきました。リーダーシップを取っていただいて、私たち議会をここまで引っ張ってくださいました。本当に感謝申し上げたいと思います。今日は４点にわたって通告しておりますので、順次、質問に入らせていただきます。

１点目は、**秋田犬の里**を道の駅にしてにぎわいをということで質問をいたします。ドライブ中にほっと一息つける場所、そんな魅力のスポットといえば道の駅ではないでしょうか。1993年に初登場して30年が経過しており、目的地に向かうまでの立ち寄り場所にすぎなかったわけですが、今では全国47都道府県に広がり、地域の拠点として活気とにぎわいの中心的存在を担っていると言っても過言ではありません。道の駅は1993年４月に全国で103の駅が初めて登録され、制度がスタートしました。登録数は右肩上がりに増えており、今年５月末時点で約12倍となる1,204駅となっていることが分かっています。本県では33駅が登録されているようですが、国土交通省によりますと全国の年間利用客は約２億人で、年間の売上額は約2,500億円にも上り、地域経済に大きく貢献していると新聞報道されておりました。急増した要因の一つは、登録の要件を24時間利用可能な駐車場とトイレを備えるなどの比較的低いハードルを設置

したことだとしております。しかも市町村などが設置者となり、国も全面支援するなど、扱う商品に対して消費者側も安心感を持って買物ができることなども指摘されているようです。また、国は道の駅の進化を３つのステージで説明しております。第１ステージは道路沿いの休憩施設としての役割でしたが、2013年頃から第２ステージとして体験型の施設を併設するなど個性豊かな駅が増え、第３ステージでは地域の活性化や観光の拠点としての多彩な魅力を全面に打ち出すなど、活気とにぎわいの中心を担っていると言っても過言ではありません。そこで、本市の場合の道の駅といえば、いま一つ活気がなく、物足りなさを感じているのは私だけでしょうか。そこで市長にお伺いいたしますが、駅前にできた秋田犬の里について、犬一匹のための建物にしては少し大きすぎるのではないかとする市民の声もあります。そういうことから、秋田犬の里を道の駅にして駅前のにぎわいを取り戻すというのはいかがでしょうか。しかも広い駐車場もあり、道の駅としての条件も整っているように思います。福原市長の前向きな考えをお聞かせください。また今回、全国道の駅連絡会の理事にも福原市長は就任されたということですので、まず地元大館駅前に道の駅をぜひとも設けていただきますようお願い申し上げます。

次、２点目として、**市立病院での眼科の手術対応について**質問いたします。高齢化の進展に伴って、最近、白内障や網膜剥離などの患者が増加傾向にあると新聞で目にしました。年を取るといやが応でも視力が衰え、眼科医のお世話にならざるを得ないわけですが、本市の場合、手術のできる病院が少ないことから待機者が多く、半年以上も待たなければならないなどの苦情の声が届いております。そこで１点目として、眼科の患者が多いせいか、手術の場合、少なくとも半年以上は待たされているこの現状についてお伺いいたします。また、緊急の場合は弘前市や秋田市の病院を紹介しているようですが、患者さんはほとんどが高齢者なので、通院もままならない人が多いことから、苦情の声が届いています。そこで２点目として、このような苦情の声にどう答えるのか。また、３点目として、医師不足で対応できないのであれば、医師確保に努めるべきではないでしょうか。病院事業管理者の考えをお聞かせください。

次、**災害時の情報発信について**質問いたします。災害時の情報発信にスマートフォンやアプリを活用する自治体が増えているとする記事を目にしました。それによりますと、財政負担や設備の老朽化を理由に防災無線を廃止するケースが多くなっているということで、高齢者などからは、情報が届かず命が危ないとする不安の声が出ていることも確かであり、課題になっているようです。天災は忘れた頃にやってくるとよく言われますが、私もスマートフォンのメールやアプリが苦手な後期高齢者ですので、デジタル機器を使いこなすことができない高齢者などの不安な気持ちがよく分かります。インターネットやメールが使いこなせないと取り残されてしまうのではとする高齢者が増えております。2019年の台風19号で地域の一部が冠水した経緯がある群馬県伊勢崎市では、防災行政無線の運用を終了したというものですが、電波の有効利用に向けた国のルール変更で、旧型のスピーカーが将来的に使えなくなるというのです。そ

の代替策として、災害時に気象警報や避難指示、避難所開設などの情報が携帯電話やパソコンに届くようメールの発信に力を入れていると思われます。しかし、高齢者のほとんどが通話機能しか使いこなせない、メールの登録をしていないなど、災害があったときの情報をどうやってキャッチし、逃げればいいのかと不安を抱える人も少なくありません。そこで提案したいと思いますが、高齢者などデジタルが苦手な人を対象に、メールの登録方法を丁寧に説明するなどして、防災情報が届くようアプリを導入してはいかがでしょうか。そのためには、市が主催するスマホ講座でアプリの使い方を教えるなどの取組が必要かと思いますがいかがでしょうか。お伺いいたします。また、携帯電話やパソコンがない住民を対象に、自宅の固定電話への防災情報を自動音声で送るシステムなども有効かと思いますので、これもぜひ参考にしていただければと思います。横手市では高齢者だけの世帯などに防災ラジオ約１万1,000台を無料で貸出ししています。しかも緊急時は自動的にスイッチが入り、災害情報が放送されるという仕組みになっているようです。そこでお伺いいたしますが、本市の場合、高齢者に対する災害時の情報発信はどのようになっているのでしょうか。災害は忘れた頃にやってきます。財政負担を抑えながらも災害時に取り残される人のないように情報発信に努めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。当局の考えをお聞かせください。

最後に、**学校での防災機能について**質問いたします。文部科学省は、災害時の避難所に指定されている全国の公立学校の防災機能に関する調査結果を公表しました。2022年12月時点で停電時の電力確保のため非常用発電機や太陽光発電を備える学校は73.2%、マンホールトイレや携帯トイレなど断水時に使用可能なトイレがあるのは73.6%で、前回の2019年４月時点よりそれぞれ12.3ポイントと15.3ポイント増えていることが分かっています。現在、避難所になる小中高や特別支援学校などは２万9,856校で公立校全体の９割ほどです。文部科学省では、災害対応型のトイレや自家発電設備の導入費用を補助する制度を設けており、しかも各自治体に対し整備を促しているのを御存じでしょうか。また、他の防災機能では、備蓄倉庫などの非常用物資の備蓄体制がある学校は82%で3.9%増となっていることが分かっています。また本県の場合、非常用発電を備えている学校は75.4%と全国を上回っている一方で、断水時に使用できるトイレがあるのは僅か29.3%にとどまっていることも分かっています。しかも断水時に備え、備蓄体制のある学校は60.4%、飲料水確保は56.7%、通信手段確保は93.5%、ガス設備などは73.5%だったと新聞で報道されていました。そこで市長にお伺いします。本市の場合、学校での防災機能の整備状況について、どのようになっているのでしょうか。また、通信手段を除く防災機能の整備には、例えば近隣の公共施設や民間事業者の備蓄物・設備などを優先利用する協定を結ぶなどのケースもあろうかと思いますが、参考までにいかがでしょうか。天災は忘れた頃にやってくるのです。学校での防災機能強化についての市長の考えをお聞かせください。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。**（拍手）**

〔24番　相馬ヱミ子君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○**市長（福原淳嗣君）**　ただいまの相馬ユミ子議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きい項目の１点目であります。秋田犬一匹の施設として大きくないかということでございましたけども、決してそういうことではありません。観光交流施設秋田犬の里は、令和元年５月にオープンして以来、秋田犬の人気により、県内外、遠くは海外から多くの方に御来館いただいております。昨年の４月には来館50万人を突破しています。５年度の来館者は11月までの累計で13万9,000人。既に４年度の年間13万2,000人を大きく超えている状況であります。先月オープンした大館駅新駅舎との相乗効果により、さらなる地域のにぎわい創出、そして地域経済波及効果が期待されているところです。また、ハチ公でつながった渋谷区との御縁により実現したＨＡＣＨＩ100プロジェクトでは、190社を超える企業や団体にパートナーとして参画していただきました。これにより、本市のＰＲのほか、パートナー企業同士の連携による新商品の開発、関連商品の販路拡大など、その経済波及効果は本当に計り知れません。本当に一緒に渋谷に行きたいぐらいです。渋谷の駅ビルの中を歩くと、スターバックスコーヒーの前で別所哲也さんの声で聞こえてくるのです。「ちょうど100年前、秋田県大館市でハチ公が……」と流れていて。ああいうのは信じられないぐらい波及効果ありました。あと、ＨＡＣＨＩフェスの日なのですけども、ＮＨＫは首都圏は別の番組を流していたのですけれども、朝から晩までずっとハチ公と渋谷と大館だけだったのです。それもカウントすると、もう何十億円と言ってもいい波及効果だと思います。今回、そのプロジェクトの大きな区切りとなった11月のＨＡＣＨＩフェスin大館、特に三重県津市と島根県など、県内外から多くの参加者の皆さんあるいは企業さんの出店がありました。そのにぎわいの様子は、今、御紹介したとおり、県内だけでなく海外のメディアについても広く取り上げられております。一匹の犬と言いましたけど、ハチ公こそ一匹の秋田犬。それでもこの一匹のハチ公の物語でこんなにも世界中に輪が広がっている。私はぜひ、その秋田犬、忠犬ハチ公のふるさと大館を、全面的に大々的に打ち出していきたいと考えております。そして一方、道の駅の仕組みを高く評価していただいたことに感謝申し上げます。既存のルールでは無理なのです。なぜかというと、道路管理者という概念が出てきて、これは一義的には国とか市町村ということになるのですが、国においては国土交通省道路局で、秋田犬の里を立ち上げた場所は都市局です。そのお金が入ってる施設を道路局のものがカウントするということはちょっと無理があります。ただ、道の駅の持ってるイメージは大分変わってきましたので、そこは知恵を出していきたいと思います。大館市には前のタイプの道の駅が２つありますが、私は今の時代にかなった３つの社会的機能を持った新しいタイプの道の駅を造る必要があると感じていますので、ぜひその面に関しても御協力いただければ非常にありがたいと思っております。

大きい項目の２点目は、後ほど吉原病院事業管理者からお答えを申し上げたいと思います。

大きい項目の３点目、災害が発生したときの情報発信。一番大切なのは、お一人お一人の市

民に確実に伝わること。そのためには情報の伝え方のメニューをより増やしていくこと、いわゆる多重化、多様化だと思っています。デジタルと言ってましたので、あえてアナログという言い方をしますが、具体的には町内会長さん、行政協力員さんへ電話で直接連絡をする、市として広報車を出す、消防自動車による呼びかけを行う、それから自主防災組織や消防団、職員が個別に訪問等をしています。これは現場で実際にやってます。そのほか、相馬議員御紹介のとおり、メール、電話、ファクスなどによる緊急の情報の発信、テレビでの文字情報の配信、スマホアプリなど、複数の手段により行っている状況であります。相馬議員はどうでしょうか。この間、地震があったときもそうですが、私は必ずＮＨＫをつけるようにします。ＮＨＫの災害情報はすごいです。しかも今はデジタルですので、ボタンを押すと、地域を限定して大館だけの１時間ごととか、画面で分かるようになっている。ＮＨＫを見ない市民の方はいないと思うのです。ですので、そういうものも喚起していきたいと思っています。相馬議員が御指摘のデジタルが苦手な方、特に御高齢の方に関しては、例えばそのアプリを提供している事業者のＦＭラジオおおだては、使い方教室を継続して開催しています。あとは、実際にスマホを売ってる販売店でも、毎週、毎日のように教室を実施しています。大館市においても、アプリの登録、設定方法を記載したチラシを作成し、ホームページに掲載しています。地域で開催する防災講座にも必ずそのつくったチラシを配布するなどして普及に努めており、そのおかげもありまして、実は、登録者数が現在１万人を超えている状況であります。私にもすぐ緊急情報が入ってくるようになってます。また、防災ラジオについてなのですけども、特に情報弱者となりやすい御高齢の方々の世帯には、防災情報を伝達する手段として導入を検討してます。御安心いただきたいと思います。今後も誰一人取り残さない情報の伝え方、手段の整備に努めてまいります。

大きい項目の４点目です。学校での防災機能ですが、実はきちんと学校にこそ防災機能を充実させるという方向性を大館は打ち出しています。災害対策計画において、特に避難所の開設においては、大館は２段階設けています。まず、市内の各公民館を一次避難所として開設します。次が小・中学校で、被害状況に応じて開設する二次避難所として、学校をきちんと位置づけております。また、備蓄体制も完璧です。一次避難所となっている中央公民館、そして各地区の公民館には備蓄品を一定量保管しています。マニュアルを含め避難所の受入れ体制を確立しています。学校を二次避難所として開設した際には、赤館にあります防災備蓄倉庫、そして比内、田代両総合支所などの防災拠点から物資をその学校に搬入し対応することにしています。また、令和２年12月11日に大塚製薬と連携協定を結びました。これはどういうことかというと、大塚ウェルネスベンディング株式会社がありますよね。そこの自動販売機を市内の小・中学校21校に設置して、災害が起きたときはその自動販売機の中の飲料水、あるいは非常食も缶でありますので、それを無償で提供できるライフラインベンダー対応型自動販売機を設置するという覚書を結んでいます。学校施設につきましては、防災施設としても重要な役割を担っていま

す。これは高橋教育長から教えてもらったのですが、やはり、地区のコミュニティーの拠点は学校ですので、相馬議員御紹介のとおり、学校に防災機能をある程度集約させることは市民の生命を守る上で非常に重要だと考えております。引き続き災害時の避難機能を学校においても維持していきたいと考えておりますので、どうか御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

○病院事業管理者（吉原秀一君）　それでは、ただいまの相馬エミ子議員の御質問にお答えしたいと思います。眼科医不足に関しては非常に御迷惑をおかけしております。実は30年以上もの間、当院は２名の常勤医で運営しておりました。眼科医は全て弘前大学医局からの派遣でした。ところが医局の事情により医局員が激減しまして、その関係で関連病院ほぼ全てで眼科医がいない状態です。当院もそういう状態で、何とか非常勤の上級医が来て手術はしているのですけれども、その上級医自体が今年度３月で他病院に転出するということで、まだ、次の人が決まっていないということで、今、手術を一時的に中止しております。さらに悪いことに、市内の開業医の先生も激減してます。一時は４軒あった眼科医が、今はしっかり手術してるのは１軒だけになりました。ただ、来年４月からもう１軒、手術できる眼科医が増えます。医局に眼科医が少なくなった事情はいろいろあるのですけれども、ただ、去年から教授が変わりまして、大分、新入医局員が増えております。ただし、新入医局員が専門医となって活躍するまでにはまだ２年、３年かかりますので、常勤の派遣にはもう少し時間がかかるかと思っています。あと、病院独自で探せないのかという御意見もありますけども、例えば、ある近くの市では全国の道の駅に医師募集のポスターを貼って、かなり高い給料を出して２名が来ました。ところが数年後にはゼロになりました。ですから、一本釣りで探すと、いなくなった後はそれで終わりなのです。ところが医局から派遣していただくと、いなくなった場合も継続して違う方を補充していただけて、継続した医療を安定的にできるということを考えると、なかなか一本釣りはリスクが高い。あと、やはり当院でできる眼科領域でも、救急重症症例は、例えば熊に目をやられたとかこの前も来ましたけど、そういうのは直ちに弘前大学のほうで診ていただくので、そういう連携を含めて、やはり医局からの派遣が適当ではないかと思っています。もちろん、秋田大学のほうにもアプローチはしてます。ちょうど昨年、秋田大学の教授をお招きして、本市の現状を見ていただいて、何とかならないですかとお話ししたのですけども、やはり人がいないということで、なかなか秋田大学のほうからの派遣もうまくいっていません。ですから今、一番確実なところは、弘前大学の新規医局者が眼科専門医に育つのを待っている状態です。そういうことで、なかなかすぐに眼科医をというわけにはいかないのですけども、救急に関しては医局の病棟には24時間医師がいますので、救急医療に対応するように、今はそういうふうに連携しております。また、日中でも緊急の場合は、大学、あるいは北秋田市の小林眼科の先生にお願いしているので、秋田市までは行かなくてもいい状態を今は形成してますので、もう少し我慢していただければと思います。御理解のほどよろしくお願いいたします。

○24番（相馬ユミ子君）　議長、24番。

○議長（武田　晋君）　24番。

○24番（相馬ユミ子君）　一問一答です。秋田犬の里ですが、一匹だけという表現はちょっとあれでしたけれども、あの立派な犬の里はちょうど場所的に駅前ですよね。にぎわいということを考えると、やはりあそこで何かイベントのようなものを定期的にやってもらえれば、にぎわいも取り戻せるのではないかという市民の声もいっぱい聞いてます。例えば土日は直売所をやるとか、そういう方向を検討してはどうでしょうか。市長の考えをお聞かせください。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの相馬ユミ子議員の再質問にお答えいたします。秋田犬の里に対する提案ということで、私も全く同じように考えています。実は、あの場所に秋田犬の里を造る上で、歴史まちづくり法をつくった国土交通省都市局のキャリア官僚に、そのレイアウトを見てもらったのです。そうすると、福原さんがつくろうとしている歴史まちづくりで、大館駅かいわいの歴史物語を町の中にいざなうには、ちゃんと動線をつくろうということになり、今のような体裁になりました。ですので、秋田犬の里を見た後、そのまま御成町、そして区画整理しているところ、ひいては歴まちが展開している市役所の桂城公園まで誘導するしつらえになっています。非常にうれしいことに、この歴史まちづくりは、市民の皆様方に相当認識していただいております。これは建設部ですが、今度は観光交流スポーツ部が進めているイタリアで生まれたまちごとホテル、アルベルゴ・ディフーゾと言うのですが、幾つかの空き家や古民家を富裕層向けにしたりとか、桜櫓館とか、石田ローズガーデンとか、そういう中に誘導していく拠点にしようということを考えています。私は観光フォーラムでも、大館のまちづくりは歴史まちづくりと観光政策が融合していますと、町の中のスペースににぎわいの場所を、まさに相馬ユミ子議員がおっしゃったにぎわいの場所を、どんどんつくっていきますと言っています。将来、国の協力も得られます。そういう中のシンボル的な場所として、あそこを位置づけたいと思ってます。ＡＮＡの機内誌の中に、今も地域おこし協力隊で働いてる方の寄稿があって、私が一番好きな場所は秋田犬の里だと、どんと載りました。ＡＮＡの方が来て、またいろいろ、こういう、ああいうアイデアと私が想定している以上に、いろんな方々の知見やアイデアが集まっています。ぜひそういう場所、町歩きの出発点、道の駅ではなく町の駅として位置づけて盛り上げていきたいと思います。ＨＡＣＨＩ100では横浜ナンバーのキッチンカーが来ましたが、将来的にはあそこの多目的広場に、この近くにあるキッチンカーを――肉×博のときもだんだんそうなってきていますけれども、定期的にイベントが開催される場所として広く知られてきていますので、ぜひそういう場所、にぎわいをつくる町の駅として、秋田犬の里を位置づけたいと思っておりますので、どうか御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○24番（相馬ユミ子君）　議長、24番。

○議長（武田　晋君）　24番。

○24番（相馬ユミ子君）　非常に前向きな市長の答弁を頂いて、私も元気をもらいました。犬一匹だけという表現が私も非常に気になっていますけれど、せっかくあれだけの建物を造って何かに使えないのかと、あそこを通るたびにいつも思っていましたので歴まちと合わせていろいろあの場所を中心に駐車場も広いですし、ぜひ町のにぎわいを取り戻していただきますようお願いします。でも、市長は今度、国会に行かれるので、その辺はきちんと職員に伝えて、引き続き頑張っていただきたいと思います。

それと、防災の件ですけれども、最近、秋田市や五城目町で水害に遭い、高齢者の方が大変な思いをして、いまだに復旧できず困っている状況を目の当たりにしました。いざというときは高齢者が非常に心配なのです。ですから、そういう情報をきちんとキャッチできるように、市長が先ほど言われた防災ラジオとか、そういうものを通して対応していただきますよう強くお願いしたいと思います。

次、病院のほうですけれども、眼科ですが……

○議長（武田　晋君）　一問一答ですか。今のは答弁はいらないですか。

○24番（相馬ユミ子君）　ごめんなさい。先に市長のほうから答弁をもらいます。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの相馬ユミ子議員の再質問にお答えいたします。実は、私の関係者も秋田市の冠水した場所にいまして、淳嗣君と言える間柄なので、事情は都度、報告というか、聞いていました。そのときに、やはりＮＨＫの情報が非常に頼りになったというのです。冠水してテレビが見えなくなって大変だったというのを聞きました。水害のとき、大館は下流から、例えば出口であったり山田渡だったり、河川が米代川の本川とぶつかるところで、場所が大体見えています。あとは内水氾濫で一番気をつけなくてはいけないのが大館駅ですが、それも受け入れる長木川の受水能力によります。消防も危機管理課も、その辺のノウハウはきちんと持っています。そのときは、実際にマンパワーでそこに行って、危険であるので避難してくださいと言えるやり方もあります。あるいは、こういうものを使える人間が使えない御高齢の方々のところに行くというところまでは何回も訓練していますので、ぜひ御安心いただきたいと思います。有事の際には絶対に市民一人も取り残さない、これをモットーに頑張っていきます。どうか御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○24番（相馬ユミ子君）　議長、24番。

○議長（武田　晋君）　24番。

○24番（相馬ユミ子君）　どうもありがとうございました。病院の眼科ですけれども、医師が不足しているということもありますでしょうし、市内の開業医も本当に少ないのです。私も吉

田眼科のお世話になりましたが、高齢者の方がもう外までずっと道路に出て並んで待ってます。それだけやはり眼科の治療が増えているということだと思うのです。市立病院もそれなりに対応して前向きに頑張っていることは評価できますけれども、市立病院で受けられるようにぜひお医者さんを増やしていただきたいです。弘前や秋田まで通っているのです。秋田の眼科を紹介されて、秋田まで１日がかりで通っていると電話が来ました。弘前に汽車に乗って行っているというお年寄りも知っています。できるだけ、そういった眼科の患者さんを市立病院で受け入れるようにしてもらえないかというお電話も頂きましたので、ぜひ院長には期待して、管理者にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。答弁は要りません。

○議長（武田　晋君）　次に、吉田勇一郎君の一般質問を許します。

〔１番　吉田勇一郎君　登壇〕（拍手）

○１番（吉田勇一郎君）　令和会の吉田勇一郎です。よろしくお願いいたします。質問の前に、まずはお礼申し上げます。10月より始まっております田代地域でのコミュニティバス実証運行につきまして、一部の路線で定員オーバーが発生しておりましたが、その都度、振替輸送いただくとともに、今月中旬からは定員数の多い車両へと変更いただいております。ありがとうございました。実証運行とは言っても、一度始まってしまえばサービス内容を変更するのは難しいのではないかというのが私自身も含めた地域の方々の懸念でありましたが、このように柔軟かつ機敏にサービスの改善に取り組んでいただき、大変心強く思っております。冬場の運行で見えてくる新たな課題もあろうかと思いますので、引き続き持続可能で利用者に優しい公共交通の実現に努めていただけますようお願い申し上げます。それでは、通告に従いまして質問いたします。質問は大項目３つです。

１点目は**次期総合計画について**です。今回の議会で原案が示される予定の次期総合計画ですが、策定に当たり事前に今年６月、市民、商工団体、まちづくり団体等からの意見聴取を行ったという説明がありましたが、その中で、子育て団体、移住者、外国籍居住者にもヒアリングを行った旨の説明がありました。人口の社会減を少しでも緩和するために、このように、大館に来てもらいたい、定着してもらいたい方々の意見を重視することは大切であると私も考えます。そこで質問ですが、こうした方々からはどのような意見が得られ、そこから抽出された主な課題は何かというものです。また、次期総合計画の中でどのように解決していこうとしているのか、現時点での見通しを教えていただきたいと思います。昨日、今日の答弁で、中期計画は捨てて現場に行こうというのが最近の市長のスローガンであるとお聞きしました。現場主義は私も非常に共感するものです。現場での新たな気づきで、具体的な改善策はどんどん変化していくものと思いますが、現時点での市長の見通しをお聞かせいただければと思います。

２点目は**ふるさと納税、旅先納税について**です。小項目で２点あります。小項目１点目は、７月３日より始まった旅先納税です。遠隔地に配送できる物品だけではなく、市内でしか受け

られないサービス、宿泊や飲食などといったサービスも、ふるさと納税の対象にできるようにと位置づけられたものです。まだ開始より４か月弱ですので速報値になるかと思いますが、現時点での利用状況を教えていただきたいと思います。小項目２点目は、ふるさと納税についてですが、先ほど、石垣議員の質問において、大変詳しく御回答がありましたので、それを踏まえて私の理解が誤っていないかだけ確認させていただければと思います。私の質問は、ふるさと納税のボトルネックは何であると考え、どのように解消しようと考えているかというものです。本日の市長の御回答内容を踏まえて整理しますと、大館市のふるさと納税のボトルネックは返礼品の供給量であり、それに対して、海外への販売も見据えた安定的な販路として地域商社を新たにつくることで、十分な量の返礼品を確保し、また、商品開発を促すという方法で解消しようとしているという理解で間違っていないか教えていただければと思います。もし補足がありましたらぜひ教えてください。

最後、３点目は**ミニ・パブリックスについて**です。ミニ・パブリックスは、くじ引き民主主義とも呼ばれているもので、無作為抽出、ランダムに選ばれた市民が集まって話合いを行い、その議論を政策に反映する市民参加の手法です。1970年代にドイツで始まり、日本国内では各地の青年会議所により、市民討議会という名称で全国270程度の自治体・地域で、推計ですが600件ほど開かれているとされております。また、東京都三鷹市をはじめ、40以上の自治体では行政の主導により、様々な事業で政策プロセスの中に組み込まれて実施されております。無作為抽出によってメンバーの固定化を避け、意識は高いけれども接点がなかった市民を巻き込むことができるという利点があります。そして何よりも、市民が取り上げられた地域課題を自分ごとにするという点が注目されており、市民参加を促進する手法として活用されております。大館市の政策プロセスでは、市民のニーズを把握するために、この議場における議論をはじめ、市長と語る会、市民団体への意見聴取、パブリックコメント、市民満足度調査といったアンケートなどが行われております。そういった手法に対して、今回提案するミニ・パブリックスは、地域課題への市民参加を促進するという点、また、既存のコミュニケーションチャンネルでは把握しきれなかった市民ニーズ――会社勤めの方々や学生など意見を表明したくてもその機会が得にくい人たちの意見を吸い上げることができるという点、３つ目として、参加者が必要な情報を提供された上で議論を重ねることにより、より深い共通理解に基づいた議論を行うことができるという特徴があります。大館市でも地域課題解決への市民参加を促進する手段として、政策プロセスにミニ・パブリックスを導入してはどうでしょうか。市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

質問は以上です。御清聴ありがとうございました。**（拍手）**

〔１番　吉田勇一郎君　質問席へ〕

〔市長　福原淳嗣君　登壇〕

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの吉田勇一郎議員の御質問にお答えいたします。まず、お答

え申し上げる前に、10月からのコミュニティバスの実証運行を高く評価していただきましたことに深く感謝申し上げたいと思います。現場担当職員のやる気もこれで増したと思います。でも一番大切なのは、これまでは計画をつくることが仕事、できたルールは守って普通でしたが、これでは駄目なのです。中期計画を捨てて現場に行こうというのは、都度変わっていく事象に、行政の側がいかに機敏に、柔軟にスピード感を持って対応できるか、その即応力が求められるということです。それに答えてくれているのが今の建設部だと思います。今、大館市役所は、これをただ単に建設部だけの事業には位置づけていません。例えば住んでよし訪れてよし。これは官公庁のモットーですけれども、来ていただいた方、特に吉田議員がすごく関心がある移住された方、大館に住んでいる外国人の方、子育ての方々の移動をどうすればいいのだろうと考えると、福祉にもなってきますし、観光で来たのであれば、観光交流スポーツ部にもなります。実証運行しているバスがありますが、じゃあ、あれを作ってるメーカーはどうなんだろうということで、産業部が関わるようにしてます。横串で事業を捉えているので、柔軟に変えられる、そういう形で進めていることをぜひ御理解いただきたいのと、このコミュニティティバスの運行は、今度は実証から実装に向かいます。冬期間の運行でまた見えてくる課題であったり、気づきがあると思います。それを実装に向けて、さらに後押ししていきたいと思いますので、これからも強力な応援団としてぜひ積極的な御声援、応援をよろしくお願い申し上げたいと思います。

まず、大きい項目の１点目です。先ほどの同僚議員の一般質問にも答えましたが、私が今回、公約で掲げた４番目の暮らしとまちを未来に導く羅針盤をつくるその根本にあるのが、現在、策定作業を進めている次期総合計画であります。その中には、大館市が目指すべき姿の基となる、いわゆる価値観から描き出される本市のまちづくりの将来像、あるいは青写真――ブループリントです。ビジョンと申し上げてもいいと思いますが、それを計画の基本構想として位置づけて、まちづくりの主要な課題――中・長期的な課題、あるいはその課題に対する捉え方、方向性ですが、これをきちんと解決して実現するための短期的な重点戦略を定めることとしています。長期、中期、短期で、その基となる大本の価値観、それと共有するべき将来像、ビジョン、ブループリント、そういうものです。計画策定に当たっては、吉田議員御紹介のとおり、子育て団体、移住者、外国籍の方からの意見聴取を行っています。ここで私たち当局側で共通しているのは、外からの視点を持った大館市民の皆さんということであります。そのように捉えると、出てきた意見の分析の仕方というか、その意図、行政に求めている本質的なものを共有できます。共有できるということは、組織として動くことができるので、これが一番大切だと思っています。そうすると、災害が少ない、住環境が静か、安心・安全なまち、情報の発信がよくなりましたとか、後は、秋田犬、比内地鶏など情報発信するべきよい物、産品が多い、うれしいことに自由度が高く、挑戦しがいがあるという移住された方からの御意見がありました。一方、交通の便がよくない、車がないと移動できない、働く場所が少ないのではない

か、子育てしながら働ける仕事が少ない、病児保育の施設が少ない、災害時の情報をもっと発信してくれというのがやはり出てきています。こういうふうなものを使って、例えば今進めている事業、コミュニティバス、ｍｏｂｉもそうです。相馬議員とやり取りしましたけれども、スマートフォンアプリを使った災害時の情報発信、こういった施策に大変参考になったと思います。頂いた御意見は、まちづくりの主要課題としてきちんと分析させていただいて、横断的に捉えていかなければならない戦略、あるいは政策分野別に捉えていかなくてはいけない戦略にちゃんと分類して、具体的な対応について短期的な重点戦略をつくる形を通じて反映していきたいと考えています。今後は、市議会にお示しいたします次期総合計画の素案、これには、まちづくりのコンセプトである「匠と歴史を伝承し、多様性（ちがい）を力に変えていく未来創造都市」の実現を目指す、実効性のある計画としていきたいと考えています。吉田議員におかれましては、今後も大所高所からアドバイスいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

大きい項目の２点目であります。まず、旅先納税についての御質問でありました。旅先納税は、新たなふるさと納税の方法であります。本市では７月３日から受付を開始し、11月20日時点で２件の申込みを頂いております。２件です。たった２件、少ないです。全国では36自治体が導入していますが、寄附件数の伸び悩みの傾向は、県内で旅先納税を先行して導入した自治体も実は同様に伸び悩んでいます。その要因を分析してみますと、旅先納税自体の認知度がまだまだ低い。あとはターゲットである観光客に対し、旅先納税がありますよとＰＲする積極的な取組がちょっと欠けていたなと反省しています。旅先納税によるふるさと納税は、これまで返礼品を用意できなかった事業者の皆様も参入できる非常に有効なふるさと納税の一種だと捉えています。今後も事業者とともに、認知度の向上、あるいは旅先納税の利用拡大に向けて取り組んでいきたいと考えています。あと、小項目２点目ではないのですが、ちょっと旅先納税の裏側の話をしたいと思います。先ほどふるさと納税の質問に関して戦いが始まるという話をさせていただきました。旅先納税は地方自治体の見方、考え方でつくられているふるさと納税なので、行政はもっと宣伝しなければならないと思います。これはマーケティング学の中でファッションショー効果と言うのですが、吉田議員は背が高いから、スポットライトを浴びるとほわんといい気持ちになるじゃないですか。そのときにこういうものが出てくるとやはり買ってしまうのです。そういうものが旅先納税にはあるので、先ほどアルベルゴ・ディフーゾ、まちごとホテルの話もしましたが、そういう場所を大館や比内や田代につくって、旅先納税でいい気持ちになってお金を落としていただくというようなことをしっかりとやっていくべきだと思います。あと小項目の２点目でありますが、結論は吉田議員の認識で間違いなし。しかも本質的にしっかりと押さえてました。さすが頭がいいと思います。そういう上で話します。寄附獲得に向けた積極的な取組の結果、令和４年度は御紹介いただきました９億7,800万円です。本当にありがとうございます。今年度は返礼品の調達費用にかかる基準の見直しがありまして、９月の駆け込み寄附が１か月で２億円。これはすごいことです。10月末時点で前年度比38.2％

も増加しています。４億8,300万円の御寄附を頂きました。目標に掲げる年間寄附額10億円達成に向けた取組として、市、中間管理事業者、返礼品事業者が一体となって様々なプロモーション活動を展開しながら、大館市自体の認知度の向上、返礼品のＰＲに取り組んでいるほかに、新たに今年度、中間管理事業者として委託しているカメイ株式会社には、新たな返礼品メニューの開発に積極的に御協力いただいております。カメイがどういう会社かということは先ほど申し上げたとおりです。大館市はふるさと納税だけでなく、今後の大館の農産品を仙台にも、アメリカの西海岸にも輸出する上で、貴重な、重要なパートナーだと位置づけています。その一方で、本市の様々な産品が持つポテンシャルからすると、寄附額10億円はあくまでも通過点。その伸び代をさらに伸ばすために、返礼品のラインナップの充実だけでなく、安定的に供給する仕組みとして、先ほど石垣博隆副議長の質問にもお答えしましたとおり、ふるさと納税の寄附を活用した新たな地域商社、株式会社大館市役所。今、勝手に言ってますけども、そういうものが必要だと思います。海援隊のような視点を持って、縦横無尽に、大館を拠点に世界中を見て動く組織が必要だと思ってます。そのために一番大切なのは、返礼品の供給量の確保という言い方、私は嫌いです。売り切れない、魅力ある返礼品を無尽に作っていくことに行き着くと思います。そのため、地域ブランドの創出・拡大に資する取組への支援を、地方創生臨時交付金の活用した事業継続力強化事業のメニューに追加したところでありますが、今後は、売り切れない仕組みづくり。そのためには、貯蔵施設の整備。例えば、きりたんぽ玉手箱は常温でもちますが、おいしいものほど冷蔵しなければならないものが多い。これはじゃこ天知事とは申し上げませんが、知事がおっしゃってました。メインになるものは肉か魚。大館は魚がない。そうすると、その魚を持ってるところで、パートナーを組めるところを探すしかない。男鹿、三種、八峰、県境超えて鰺ヶ沢でもいいです。そういうものには、行政がどんどん絡んでく。むしろ地域商社だからできることだと思っています。こういう視点を大切にしたいと思います。そして、こういう業界にこそ、やはり吉田議員のような若い人がどんどん来て、積極的に提案をしていってほしいと思います。若い世代が挑戦をしていく地域は必ず伸びます。ぜひ御協力いただきたいと思います。

そして大きい項目の３点目、ミニ・パブリックスでありますが、これは吉田議員の御紹介のとおり、市民が市政に参画する機会を提供し、私ごととして市政に関わるきっかけになる制度です。まさに福沢諭吉先生の「立国は私なり、公に非らざるなり」を地でいく仕組みです。政治学を学問として学んだ人間からすると、政治的社会化という言葉があるのですが、政治的社会化の手法として有効なものだと考えています。現在、市では、本庁舎を建てます、あるいは、今、御紹介した総合計画をつくります、都市再興基本計画を立ち上げますなど、市の基本的な政策に関する計画、あるいは指針を策定する際には、必ずパブリックコメントを実施して、計画等の原案を市民の皆さんに公表しています。そして寄せられた意見、情報を政策形成に都度反映させる仕組みを取り入れています。また今後、これまでのまちづくりの政策とは違う、例

えば脱炭素型ライフスタイル、あるいは野遊びＳＤＧｓ、これから必要となる子ども・子育て政策、大館市家族会議等にあっては、ワークショップは開催しますが、それ以上に必要に応じて市民の皆さんから意見を頂く機会を設けていかなければならないと考えています。ミニ・パブリックスの導入については、抽選で選ばれたのに参加をしない方がいます。社会の縮図を形成するという点では確かに課題はあるかもしれませんが、市民が現状を見て意見を述べることは施策を進める上で非常に有効な手段だと考えています。前向きに検討していきたいと考えています。これから必要になってくるのは、人口が爆縮していく中で、市民の皆さんと行政とのコミュニケーションの在り方が大幅に変わっていくであろうということであります。行政組織が持っている強み、よさを発揮する上で、できるだけ市民の皆さんに参画をしていただく、いろんなメニューを考えていかなければならないが、ミニ・パブリックスもその中の重要な、有効な手段の一つと捉えております。以上であります。よろしく御理解賜りますようお願い申し上げます。

○１番（吉田勇一郎君）　議長、24番。

○議長（武田　晋君）　24番。

○１番（吉田勇一郎君）　大変御丁寧な答弁、ありがとうございました。質問というわけではないですけれども、旅先納税について、現状、あまり振るっていないのだけれども、これからＰＲのほうを進めていきたいということで、これはお話を聞いていて、すごくジャストアイデアなのですけれども、やはり旅行先よりも、旅行に出る前に目に触れていないとなかなか活用は難しいのかなと、仕組みというか、そのサービスの内容を見て思いました。やはり、新しくいらっしゃる方よりは、リピーターの方々、大館を気に入ってまた来たいと思ってる方々に訴求すると効果的なのではないかなと。例えば先月ありましたガストロノミーウォーキングであったりとか、そういったイベント等に絡めて少しずつ認知を広げていくというのが実際はいいのではないかと思いました。あと、やはり物品を買っていただける方、10億円という物すごい規模で大館市とのつながりが広がっていることは、非常にすばらしいことだと思います。旅先納税で関わりができる方というのは、そこからさらに一歩進んで、大館市に実際に来て、いろんな自然だったり人であったり、体験をされた方々が対象になると思いますので、何かプレミアム的な価値があるものを添えるというのも、一つのやり方としてはありかと思います。これは自分のジャストアイデアですけれど、お話をしました。

○市長（福原淳嗣君）　議長。

○議長（武田　晋君）　市長。

○市長（福原淳嗣君）　ただいまの吉田勇一郎議員の再質問というか、再提案にお答え申し上げます。非常にいい提案を頂きました。実は、失敗したなと思ったのが、ハチ公生誕100年フェスティバルで、忠犬ハチ公銅像維持会の方々とハチ公生誕100年祭、慰霊祭を行ったときに、旅先納税を教えてくれた人たち、純金のプレートを提供してくれたお金持ちの社長さんと

かが、秋田犬の里でお札を出して買物をしているのです。いや、ここは旅先納税できる場所だと教えたら、大館市も導入していたのかと言われて、ＰＲすればよかったと今、深く反省しています。そういう方々というのは、もう既に大館のリピーターなので、今度来てもらったときはその形で旅先納税を使っていただきたいし、私たちも旅先納税の場所に行ったら使いたいと思います。先般、副議長と行った宇佐市はやってました。そういうふうに、やはり自分たちも使わないといけないと思います。非常にすばらしい提案を頂きました。すぐ実行に移したいと思います。ありがとうございます。

○議長（武田　晋君）　以上で、一般質問を終わります。

日程第２　議案等の付託

○議長（武田　晋君）　日程第２、議案等の付託を行います。

議案等24件は、配付しております議案等付託表のとおり、それぞれ各委員会に付託いたします。

議　案　等　付　託　表

番　号	件　名	付託委員会
議案 第 97 号	大館市国民健康保険税条例の一部を改正する条例案	厚　生　委
〃　第 98 号	大館市手数料条例の一部を改正する条例案	総　財　委
〃　第 99 号	大館市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	厚　生　委
〃　第100号	財産の取得について（土地　柄沢字小柄沢１番外34筆）	〃
〃　第101号	大館市特別養護老人ホームつくし苑の指定管理者の指定について	〃
〃　第102号	大館市養護老人ホーム成章園の指定管理者の指定について	〃
〃　第103号	大館市デイサービスセンターかつらの指定管理者の指定について	〃
〃　第104号	大館市デイサービスセンター大滝の指定管理者の指定について	〃
〃　第105号	大館市ケアハウスほうおうの指定管理者の指定について	〃

議案 第106号	大館市大館地域の公園施設の指定管理者の指定について	教　産　委
〃　第107号	大館市比内地域の体育施設及び公園施設の指定管理者の指定について	〃
〃　第108号	大館市田代地域の体育施設及び公園施設の指定管理者の指定について	〃
〃　第109号	市道路線の認定について（芦田子１号線）	建　水　委
〃　第110号	令和５年度大館市一般会計補正予算（第９号）案	（分　割）
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳入　全　部 歳出　第２款　総務費（ただし、第２項・第３項を除く） 第９款　消防費 第２条第２表　債務負担行為補正のうち、清掃業務委託料（本庁舎）、内部情報システム更新事業 第３条第３表　地方債補正 （最　終　調　整）	総　財　委
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第２款　総務費のうち、第２項・第３項 第３款　民生費 第４款　衛生費 第２条第２表　債務負担行為補正のうち、し尿処理場修繕事業、浄化槽維持管理業務委託料（小柄沢墓園・粗大ごみ処理場）	厚　生　委
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第６款　農林水産業費 第７款　商工費 第10款　教育費 第11款　災害復旧費のうち、第１項 第２条第２表　債務負担行為補正のうち、令和５年度農業・漁業経営フォローアップ資金利子補給費補助金、高館テニスコート人工芝張替工事、浄化槽維持管理業務委託料（小泉交流センター・市民の森休憩所・五色湖周辺施設・小学校・	教　産　委

	中学校・公民館・鳥潟会館・郷土博物館・体育館・花岡総合スポーツ公園・学校給食センター)	
	第１条第１表　歳入歳出予算補正のうち、 歳出　第８款　土木費 第11款　災害復旧費のうち、第２項 第２条第２表　債務負担行為補正のうち、桜檜館施設管理委託料、浄化槽維持管理業務委託料（釈迦内パーキングエリア・米代川河川緑地・市営大森野住宅）	建　水　委
議案 第111号	令和５年度大館市国民健康保険特別会計補正予算（第２号）案	厚　生　委
〃　第112号	令和５年度大館市介護保険特別会計補正予算（第２号）案	〃
〃　第113号	令和５年度大館市休日夜間急患センター特別会計補正予算（第１号）案	〃
〃　第114号	令和５年度大館市水道事業会計補正予算（第２号）案	建　水　委
〃　第115号	令和５年度大館市下水道事業会計補正予算（第２号）案	〃
〃　第116号	令和５年度大館市病院事業会計補正予算（第３号）案	厚　生　委
陳情 第 8 号	安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善について国に意見書提出を求める陳情	〃
〃　第 9 号	国民のいのちと健康を守るため、政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める陳情	〃
〃　第 10 号	健康保険証廃止の中止について国に意見書提出を求める陳情	〃
〃　第 11 号	秋田県に対して「子供の医療費助成を中学から高校卒業まで引き上げること」を求める意見書提出の陳情書	〃

○議長（武田　晋君）　以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の会議は、12月７日午後１時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後４時18分　　散　　会